江戸名所圖會

七

ル 4
5105
7

門 ヘ 1
號 5105
卷 7

江戸名所圖會卷之三

天璣之部目録

永田馬場日吉山王神社
成田下総守長泰舊地
第六天祠
貝塚
寅藥師如来
栖岸院
平川天満宮
千手観世音
揺田
霊南坂
一本松
多日観音
揺ら井
麻布善福寺
氷川明神社
子安藥師如来
廣尾水車
清水坂
震関舊跡
七佛藥師堂
祥雲禪寺
廣尾原
氷川明神社雷電宮
覚林寺清正公社
松秀寺
梅ら茶屋
紀城天満宮
英一蝶墓
澁森神明宮
土筆原
三話坂
無雲院
震山稲荷祠
廣尾毘沙門堂
溜池

寶晉齋其角墓　二本榎覚仏寺　法林寺　兼敬寺　上沼寺　圓長寺

英橋院の圖　正覚院　丹生高野社　三社松　天王祭　選佛場　滝樓　本厚　経塚　牌堂　数学寮　稚子宮

元三大師堂　瑞聖寺　仏殿　袖の磯

白狼妙見堂　縁作観音堂　誕生八幡宮　滝樓　経塚　牌堂　数学寮　沼人坂　数万塚　百羅漢

明王院　子安観音　無妙天　富士見桑畑　太鼓橋

蟠龍寺岩窟　雑賊天　夕日の岳　安養院　釈釋迦堂

蜻蛉師堂　同悪不動堂　八幡宮　早尾権現　石不動　本地大日如来　結神祠　秋葉権現　穂高祠　名産胡瓜　経塚　本堂　恵比須大黒祠　地蔵堂　古祥天祠　汐小角　三佛堂　荒神宮　六所明神

大島明神社　陸橋　聖観音　鬼子母神　子安明神　無妙天祠　前不動　水神宮　同山堂　十羅刹女祠　地蔵堂　楼門

祐天寺　陸橋　二王門　楼木　愛染明王　太子堂　虚空蔵堂　栗島明神　観音堂　獨鈷の池

金毘羅権現社　圓光大師堂　同山庵　経塚　寺宝　虚空蔵堂　長泉律院　碑文谷法華寺　寺　東昌　小九品佛　碑文谷八幡宮　奥澤浄真寺　本堂　地蔵堂

千代の傍　観音　不動堂　弥陀堂

三ノ目一

同山河嶺上人像　同山庵　星の井

大平山　曼荼羅堂　陸橋　中殿堂　楼門　寺宝　上殿堂　寺宝　下殿堂　同山堂　同山晩鐘

赤坂氷川明神社　満願寺廣澤先生之墓　赤坂御門

今井古城址　古呂坂天神社　龍泉寺　一ノ木辨天堂

淨土寺　専修寺　一ノ木原山　一ノ木原　種徳の稲荷と無名墓

圓通寺舊跡　玉窓寺

鳳岡寺　梅窓院泰平観音堂　仏見観音堂　養光寺　拾ひ橋　虚空蔵堂　百御稲荷　宮州長先寺　寺

海蔵寺　慈眼堂権現社　千代塚　渋谷氷川明神社　宝泉寺

観音堂

通明観　長谷寺　鶴ヶ谷　朝霧ヶ瀧

金王麻呂守佛観音　金王麻呂影堂

渋谷八幡宮　奥拾観音　今王橋　子安菩薩　什宮　姉尾先景旧館地　弱繋松

同産湯水　河湯富宅旧址　神泥水　富士見坂　富士見橋

甘露水　玉池

道玄坂
土筆塚
北澤淺島明神社
若宮八幡宮 田中無量寺天祠
常經橋
吉良氏古城址 富士見松
弦巻郷
氷川明神社
吉祥院
小見村除蝗蛇神祠
江戸遠江守舊領地
稲毛重成墓 長者穴

同物見松
足毛塚
池尻村祖師堂
豪徳禅寺 開基碑
宮坂八幡宮 慶長一二之棟札
世田谷八幡宮
常刀先生義賢之墓 吉良氏家臣 岡林本光松
龍華山永安寺
觀音寺

駒場野 蛇塚 清水松
氷川明神社
子明神社
圓禪寺
玄我菩塚
天満宮
馬寮沢舊跡
常光寺
樂寺 霊泉 絶塚
泉龍寺 宿茅師
慶元寺
升形山
雲う坂
廣福寺
仮宮山 七面富士 法同河
藥師堂
實相院 字岩殿 古碑 尚山開闢石塔
石井神社
天神の森
氷川明神社

大師穴
稲毛藥師堂 新向碑
橋明神社 右道 左道
登戸宿
小杉新田地
田谷
汐干觀世音
内藤新宿
一行院
遊女の松 寂光寺境内
五社谷八幡宮
代太橋
布多天神社
不動橋現社
山王橋現社
半頭天王社
忍原
大宗寺 二番目
古佛不院洞像
仙壽院 紫日暮 鈴懸松
言井戸
虎柏神社
杉山明神社
舟田
大戸明神社
要源寺
丸子渡口
戒行寺 母神 鬼子 塚川
田谷大木戸
毅河橋
五社谷太神宮
千駄谷觀音堂
鞍懸松
布多の里
柏ヶ入道田畑地

妙樂寺七面山
十三塚
同神廟
最明寺
羽黒橋現社
鬼子母神堂
篠寺
天龍寺 一里塚
吾妻堤
龍岩寺 庵中 笠松
代太野八幡宮
鬼子母神堂
徳圓寺 茅師堂

墨の稲荷

深大寺　元三大師堂　深沙大王社

延波田潭正城址　同伝蓮田跡

京ヶ窪　牛頭天王

紫仲

石塚社　御宮　御連樹　神楽　天下泰平祈願　同面神車

安養寺

長明寺

代小川　搭古樹

六所宮御旅所　御田　随身門　大神車同図　御田植神車同図

武蔵国造兄武日命敷設田跡

分倍河原　胴塚

小野宮村

小野牧

清水立場

安楽寺

第願寺

高幡金剛寺不動堂

別旅明神

二王塚

横溝八郎墳墓

天守壇

明覚寺

国安明神祠

都筑の邑

青渭神社　又大宮石　同来向池

深大寺城址　鎧三石

国分寺　茅師堂　二王門　古尾　二王門田跡

武蔵野

八ヶ八幡宮　種の

武蔵野翁

瀧の社

小野神社　本地堂　護摩堂　帝札　小祭　天下泰平祈願　什宮

是政村

三ヶ人塚

小野神社舊址

称名寺

青渭堤　福満堂子祠　茅師堂　二王門　仁王塚　古尾　二王門田跡

富士見塚

傾城ヶ松

逃水

府中驛舎　随身門　大神車同図　御田植神車同図

武蔵野

阿弥陀坂　阿弥陀堂

妙光院　什宮

清水立場

言安禅寺　唐郎昊祠　紀義覚の井

谷保天神社　老樹の水　道武兄弟昊社

菱沢道武兄弟舊跡地

日野津

諏訪社　二王門　鬼井　賊石　恵門

平惟盛之墓

百草八幡宮

小山田冥田址　関戸

沓切坂

小澤小太郎居宅田地

穴沢天神社

小沢城址

青沼明神社

寿福禅寺　本地堂　指月橋　餐霞谷　阿弥陀堂　遠る宮　撞茅阜

弥勒寺　津戸親鸞墓

普濟禅寺　塔　六面

假家坂

八幡宮

同獅子

番匠谷　井戸

木切澤

松蓮禅寺　古経筒　バ王見

一宮大明神社

延命寺

赤坂壇

城山

平壇　壇之清松

威光寺

向の岡

展翼滝　法用山

吐玉泉　法泉寺　薬師堂

日吉山王神社　永田馬場よりある江戸第一の大社ゆゑ別當ハ天台宗僧正ゆゑ観理院と号し神主ハ樹下氏なり其餘社僧ならびに社家巫女等数多あるも御祭禮ハ隔年六月十五日なりその行粧も初巻茅場町御旅所の条下に詳なり

本社　祭神　大宮　比叡の二宮小比叡大明神を勧請せ垂跡ハ國常立尊

二宮　氣比宮を勧請せ垂跡ハ仲哀天皇なり聖観世音菩薩を本地佛とせ

冊　天皇の御父なり聖観世音菩薩を本地佛とせ

白山妙理権現なり十一面観世音菩薩を本地佛とせ

三宮　客人宮を勧請す垂跡ハ伊弉冊尊の第三ゆゑ下の七社の中王子宮本地ハ文殊大士なりとあり江戸名所記

古鰐口　昔ハ本社に掛りあり其銘左の如し今ハ右の方稲荷祠に掛くあり径一尺あり

敬白奉納山王權現御寶前鰐口大檀那直景

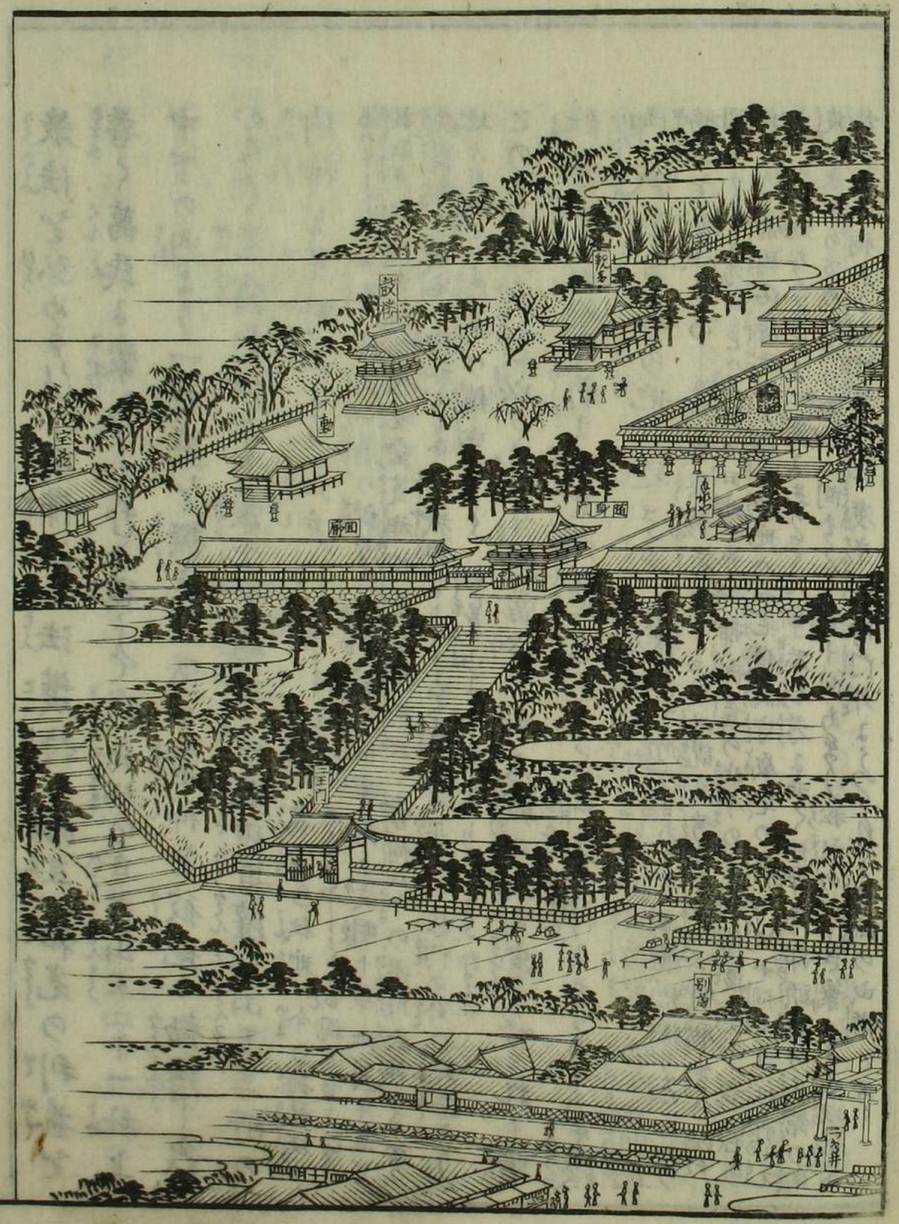
願主南仙房

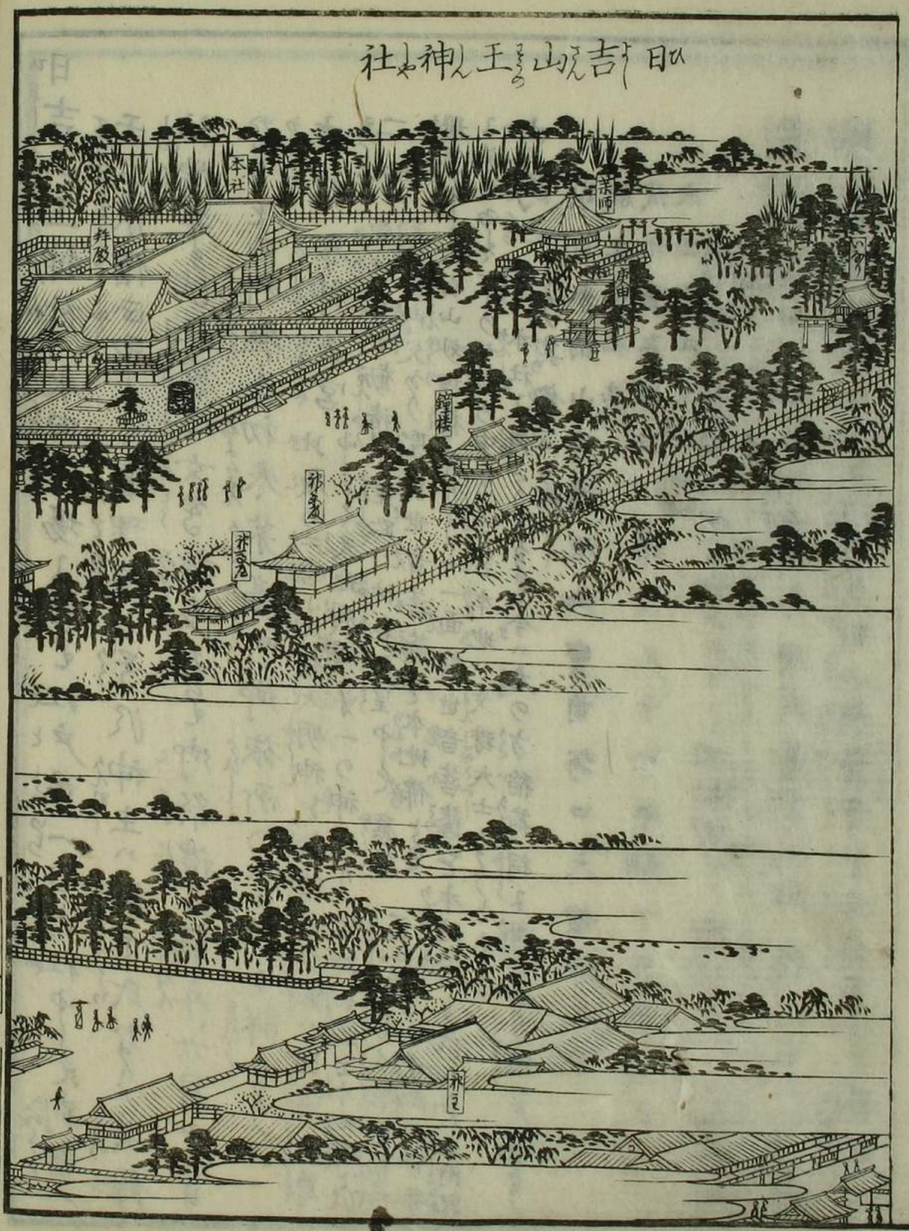
武州豊島郡江戸館天正十四年丙戌十月廿五日

大田大和大工（長瀬雅名）

按に昔ハ山王宮江城の中ホの祠にかけ置るゝ古きと存せんるゝを挙るのゝ

當社ハ淳和天皇の天長七年庚戌慈覚大師勅によりて武蔵國入間郡仙波ふある所の星野山無量寺を再興あるゝ圓頓の




日吉山王神社

教法を弘めるひ〜頃佛法王法護持の為且ハ和光の利益を
普く萬民よ蒙ら〜めむと欲し〜我立杜の日吉山王二十一社上
中下の内より一社宛を撰ぶ三所の靈神を彼地よ勧請しぬ
か〜く星霜を経へて然よ文明年中太田道灌此山王三所の
御神を星野山より江戸に迁し奉る（大道寺友山翁の説なり或人云太田家譜よ文明十年六月十五日
其頃の社地ハ今の梅林坂の於江戸城内建山王権現堂荒神祠菅丞相祠云々菅祠ハ今の平川天神のなり
あ〜ゆ〜く菅祠と云ひく
序國初の頃迄ハ両社とも御城内ハ平川口注門の外へ天正より
迁され山王ハ御城の鎮守と〜く紅葉山よ迁座ましく〜る）
この〜く江戸を以て永く御當家御居城の地よ定させられ〜頃
紅葉山よ地〜く新よ社を御造営あり〜く御産神よあらめあ平後
御城西貝塚の地へ迁さる（江戸名所紀よ後土御門院延徳年中仰の旨あり〜く道灌結縁のあ三石の
御社を城西よら〜ひ再奥修造あり云此説未考へ其年歴詳ぜ寛永明暦若の江戸
図ゆ考へ其社の旧地ハ井伊掃部頭の北今の三宅備後守殿の裏の坂ゆ祠あり此所元
地なり新岡沾涼云山王宮の旧地ハ三宅備後守殿宅の裏の坂ゆ祠あり此所元
山王の旧地なりとあるハ実よ考へて又事跡合考よ云く伊井掃部頭殿の居館の南
後九年申の方の小坂の際神二間ばかりあり松杉の少き繁るる坂の内ゆ
稲荷の小祠ある隙地是山王一度半蔵御門外よ移され〜古跡の由備と云く）
又義應三年甲午田禄の後溜池の築山勝地たるにより
竟ハ　台命ひ〜く今の地へ迁座なし奉り宮社御造営あり〜
より江府第一の宮居となる（名勝志よ云く明暦丁酉の歳田禄よ
て義應三年當社を貝塚より今の地へ
迁し奉るとあれ義應ハ明暦より先の年号なるとハ金殿玉楼ハ天ゆ輝き
此説疑とも云ふ〜〜或人云方治元年今の地よ移すと云く）
畫棟朱簾ハ地よ映せり（名勝志よ此地ハ元松平主殿頭弟宅の地なりしとあ）
和光同塵の利益浅ら〜ず内ゆ圓宗の教法を守り外ゆ
鎮國利民の德を施し〜ぬ殊更御當家の御産土神と
御崇敬最厚く天下泰平國家安鎮の御祈祷永世よ怠
らるるなし
成田下總守長泰旧地　永田馬場山王の隣丹羽家の地なりと
〜〜古へ武州忍の城主なり
第六天祠　同所兼松家の地ゆあり太田左金吾道灌の勧請
といひつ〜〜

平川天満宮御城西麹町三丁目の南平川町よりより別當ハ天台宗わ〳〵く長松山龍眼寺と号け東叡山ゟ屬せ

傳云當社ハ文明十年戊戌六月廿五日太田持資當國入開郡川越三芳野の天神を江戸城ゟ勸請し數株の梅を栽ると云云

今の御城内平川の梅林坂と唱ふハ其梅林の田跡なり新安子簡ゟ文明中畠道灌築れ〳〵し江戸城平河口の中菅神の社上棟の文ゟ文明十年戊戌六月廿五日と有之云く其後天正十八年御入國の頃彼宮を平川口の外へ移さる友山翁云江戸御入府の節平川より貝塚へ故ゟ平河の天神と唱へ来る迄〳〵故ゟ貝塚の天神とも云といふ此故ゟ今の麹町の地ゟ至りても旧名を又其後慶長ゟ至て御本丸御造營の頃竟ゟ今の麹町ゟ地を改めらるゝ

大道寺友山翁云く平河御門の外ゟ平河町と称する有り其平河町の内ゟ藥師堂有て夫より今の麹町の方へ續き昔の甲州街道なり其別當天神の社を預て茶師堂の内ゟ藥師堂の社も共ゟ移すと又縁記ゟ麹町ゟ地名なり麹町の辺へ引き刻天神の社も共ゟ移すと又縁記ゟ麹町屋も公用の茶師ゟ〳〵ひかへ幡宮の小社有り今ゟ至て旧地の名を改めて天満宮の社内ゟ彼ハ幡宮も勸請し〳〵守らせらると云く

寛政七年修營有り〳〵神殿清新なる毎年二月廿五日菅神自画の神影をかけ〳〵諸人ゟ拜さ〳〵む

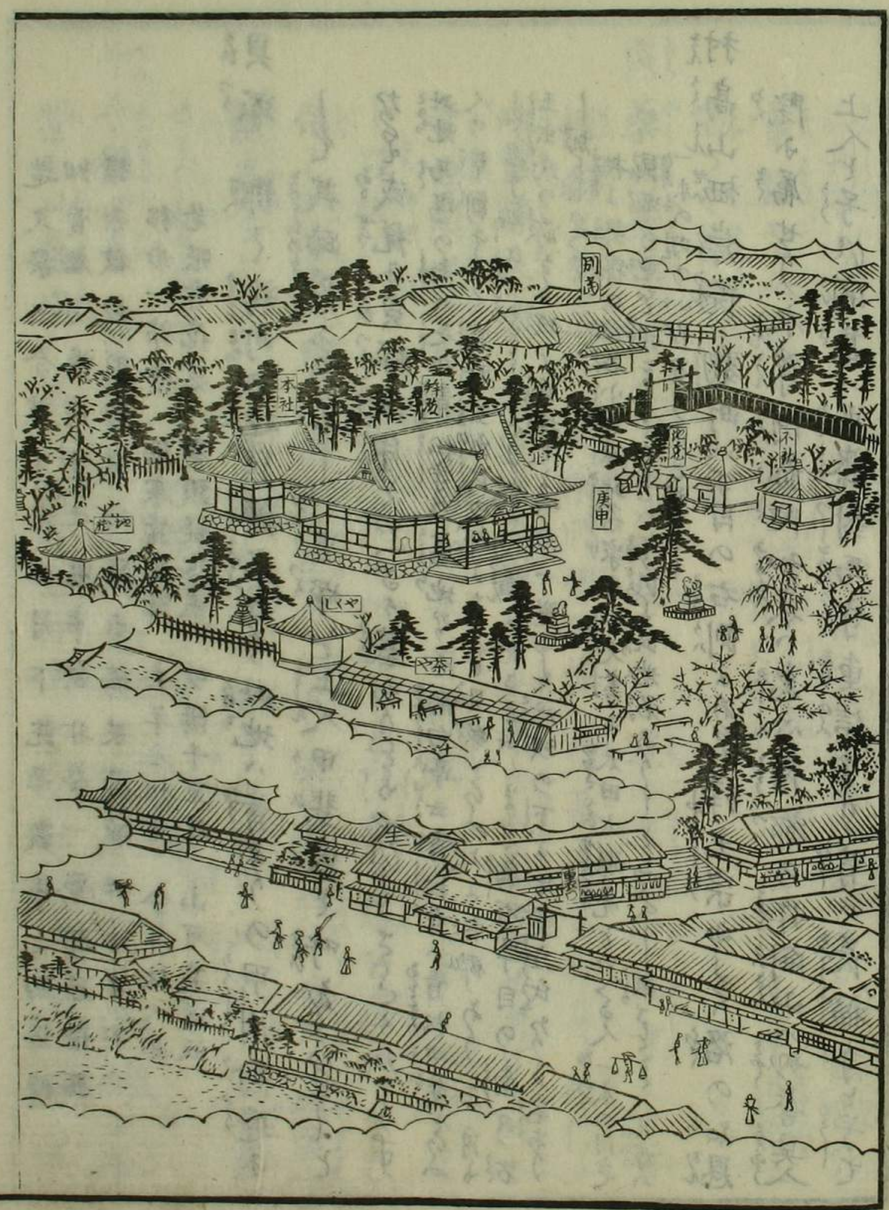
梅花無盡蔵云余比寓武之江戸城々有丞相祠堂裁柳挿松不知幾數百株文明丙午仲春二十有五遭値丑之晨寔也之所以也謹賦小詩題丞相之壁上夫徑山之傳衣迦湖茫之説而國史亦不取之也故未及茲云

北野春遊西府雲夢中傳法定焉有一嚮此地亦拙君松亦應云梅亦云

同書云遊江戸城菅丞相祠堂開闢評花甚不公独居南面牡丹紅若令丞相細分州梅亦應編王者中

宋末江湖梅亦孤吟香白髮老浮屠横斜月瘦一枝影分作文公大極圖

同書云花下晩步詩序身居關左而名摶海内着太田二十石灌公静勝是也公曾宴坐一室夢中見接管丞相其昱早有人卒然来献丞相所親筆之畫像可謂靈夢也遂建廣於江戸城之北畔寄數十頃之美田歳時鼓焉栽培梅數百株頗超於錦城之梅花海也前年丙午之春共公遊廣下詩之評歌之講爛漫花前無愧洛社之蒼英也同秋之孟二十六公逝矣余


本社
唐申

ひらかたてんまんぐう
平川天満宮

造文祭之今茲丁未正月下浣率數輩之緇侶徘徊菅廟追憶前年之遊事豈非夢一覺邪感槩無措余欲鼓旗掉旗岐陽未能果漫賦四十言云

移歩一節瘦　餘寒驚度稀　去年丞相廟　今日故人非
老眼看花落　舉頭疑雪飛　岐陽千里外　山可笑遲旗

貝塚　都く麹町の辺北總名なり此地ハ昔よりの甲州街道ゆ

しゑ其路傍ゆゑ一里塚を土人甲斐塚と呼あつせしと

なる或説ゆ貝塚法印といつるる墓ありともいひく さ〻こゝ〻す

此地馬場の南ハ芝の青松寺の舊地なり南向亭云青松寺ハ青松甲斐とゝ

人の草創やく當時玉虫氏の邸よりあるを貝塚とゝ上ハ古碑あり年月も

玉虫氏の前なる坂を貝坂とゝ今ハ幡ゆ杞るとゝ麹町四丁目の南の方

一説ゆゑ此坂の下ゆ甲斐庄氏なる宅あり

按ゆ貝塚の地名小田原北条家の古文書ゆ太田大膳亮とゝる人一水の内老

貝塚の地を領せるとゝあるとゝも此地名なりしゝ然るゝハ貝塚ハ

一水の内の小名なりしと地名なりしゝ

村島山柢岸院　麹町八丁目の右側ゆあり浄土宗ゆく洛の知恩

院ゆ属せり本尊阿弥陀如来ハ恵心僧都の作開山ハ如誉真入

上人と号ス開基ハ安藤對馬守重信なり昔ハ長福寺と号て

三州ゆありしとゝ當寺ゆ頼朝の念持佛と称する聖觀音ゆ

霊像を安置す　龕前ゆ安置の觀音の像ハ　七月十日ハ千日参と

唱へく参詣頗る多し　櫛正成ゆる信の尊像なりとゝ

寅

薬師如来　同北の横小路坂より上道の左側常仙寺とゝる

禪刹ゆ安置せり此薬師佛の像ハ行基大士の作なり相伝ゆ

此霊像永禄の頃迄ハ参州鳳来寺の山麓ゆ立せあひしゆ往古

當寺開山祥岩存吉禪師参州新城よりくゝるゝ凡俗なる

し頃氏とゝ　此霊像虎ゆ化現しゆひ狼の難を遁れしむ

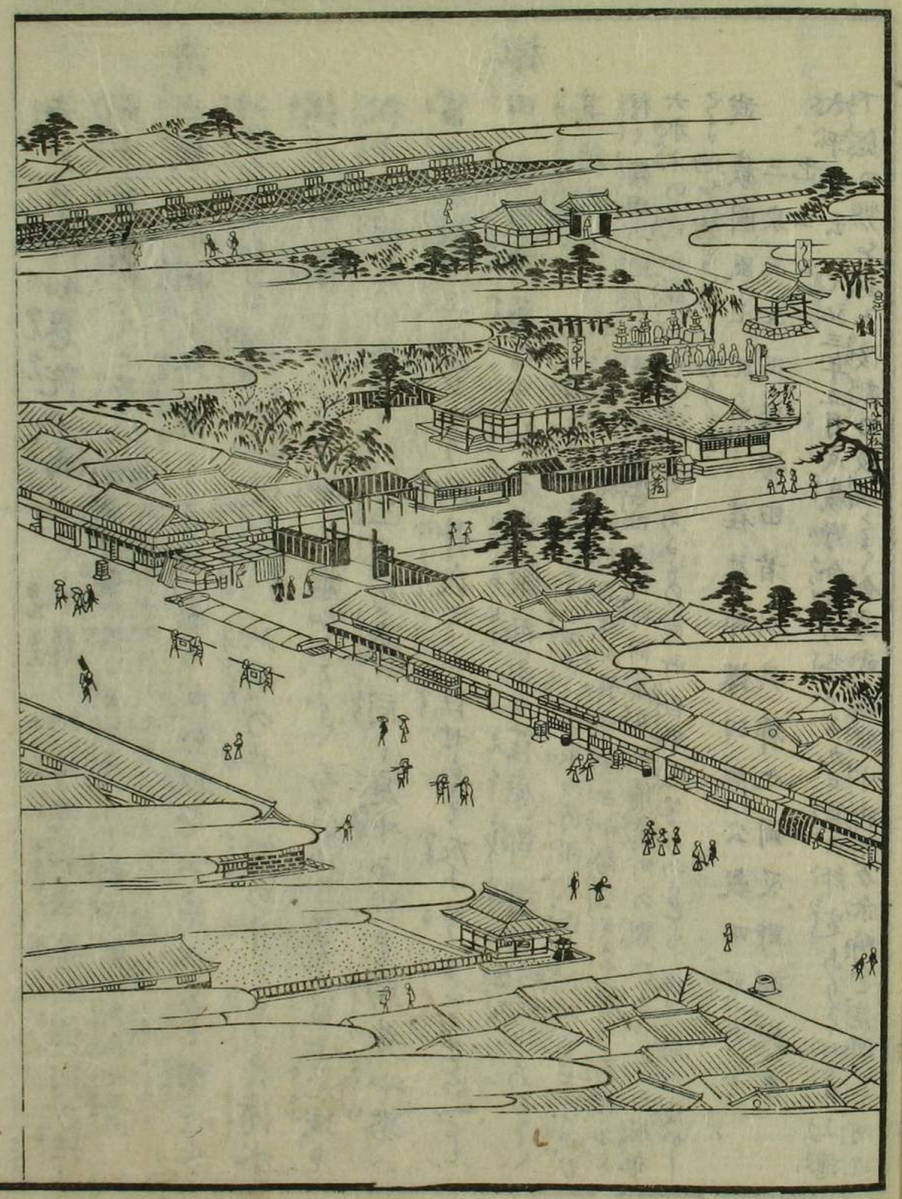
依く平後法恩の為ゆ出家し江戸ゆ来ゝく四谷塩町の明雲山

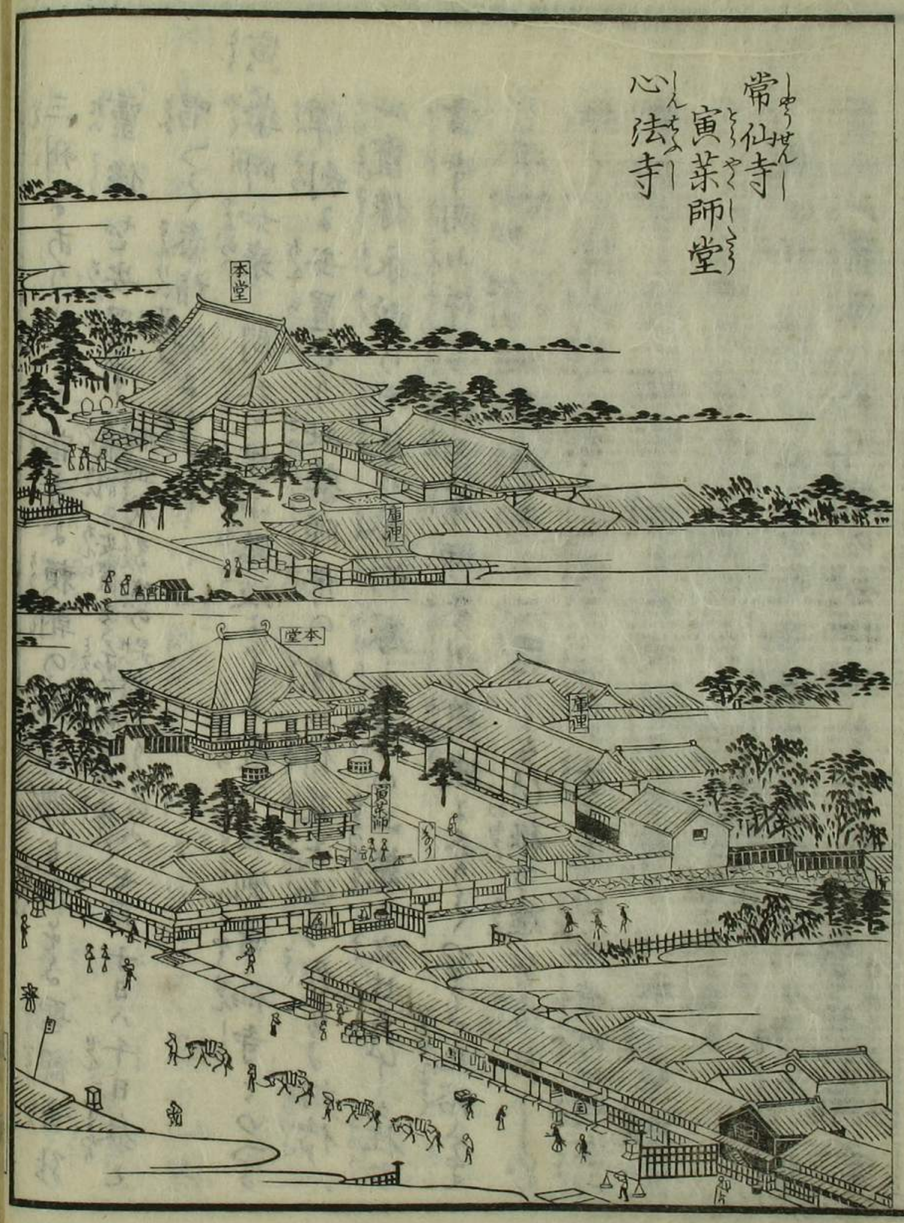
龍昌寺とゝる禪林ゆ住せ其頃當寺を開く此本尊を安置

せしとゝあり毎月八日十二日参詣多し　此かゝあゝ所ゆ此小路を薬師横町とゝ

千手観世音　同九丁目の右側常栄山心法寺とゝる浄刹ゆ安

置せ此霊像ハ秦川勝の念持佛ありとゝる　檀像金立像一寸八分ありと云　當




常仙寺
寅茱師堂
心法寺
本堂
庫裏
本堂
庫裏

寺ハ京師知恩院ニ属シ本尊ハ阿弥陀如来恵心僧都の作
岡山ハ然翁上人と号ス當寺洪鐘の銘ニ市谷庄とあり観音堂ニ閻王十王の像あり毎年四月と七月の十六日盛衰の数一

清水坂　尾州公邸館と井伊家の間の坂を云清水谷と唱ふ
此辺の町名　麹町八丁目へ出る坂下　此所の井を柳の井と号ル清水
流る　柳蔭といふる古歌の意をとりて名とす　富士見坂を
松平出羽侯の前を出て玉川の滝ハ同し庭中にあり　駒井小路ハ
富士見坂の上の方あり　駒井氏こゝに住せらるゝ故号とそ

櫻田　古の郷名なり　和名類聚抄にも荏原郡櫻田佐久良太と
其称尤久し　今ハ豊島郡ニ属せり　小田原北条家の所領役帳に太田源七郎及ひ
往く櫻田の地名を注し加へ　牛込宮内少輔勝行與津加賀守曾田中務丞等の不領ゆえ
六本木の南に桜田町と唱ふ　櫻田久保町同兼房町備前町の類ひまさ今の麻布
こゝ地を称ふ　同所百姓町等ハ入國の後かし

武蔵國風土記曰　荏原郡櫻田郷公穀四百六十
三東三字田鶴櫻田者　以其郷之岡及野櫻樹多
也云云　太平記云元弘三年五月武蔵野の合戦の条下に九日軍の評定あり翌日上總
下総の勢を謀る後の敵の後塚と金澤武蔵守守将五万余騎を差副て下河辺

櫻ゐ井
井伊侯の藩邸の前よりあり

へ下る一方へハ櫻田治部太輔貞國を大将ゆく長崎二郎高重同孫四郎左衛門加治二郎左衛門八道より武蔵上野両國の勢六万余騎を相添く上路より入間河へ向らるとあり新著聞集ハ櫻田ハ虎の門より愛宕の辺迄田地ゆゑ畔ゆゑ櫻の樹幾千本も植あり田の中の流れを櫻川とのびし今ハ源助橋と唱ふ印

とその所ハ櫻田と称せ地ハ今櫻田門なと唱へ内櫻田外櫻田といふあり

庭中へうつされしとそ云く

按ずるに山下門の西虎の門の外迄の名ゆゑ其田跡あるへし依

櫻ゐ井　井伊侯藩邸表門の前石垣のもとにあり亘る九尺

さかり石ゆく畳ゑ　大井なり釣瓶の車三川かけなるく

たゞ或云事　跡合考ハ井伊家中屋敷四ッ谷喰違の屋敷

ともあり若葉井ハ同所堀端番屋の裏にあり柳の木を

うゑ原ハ柳の水ともいへるもの清冷なる甘泉なり

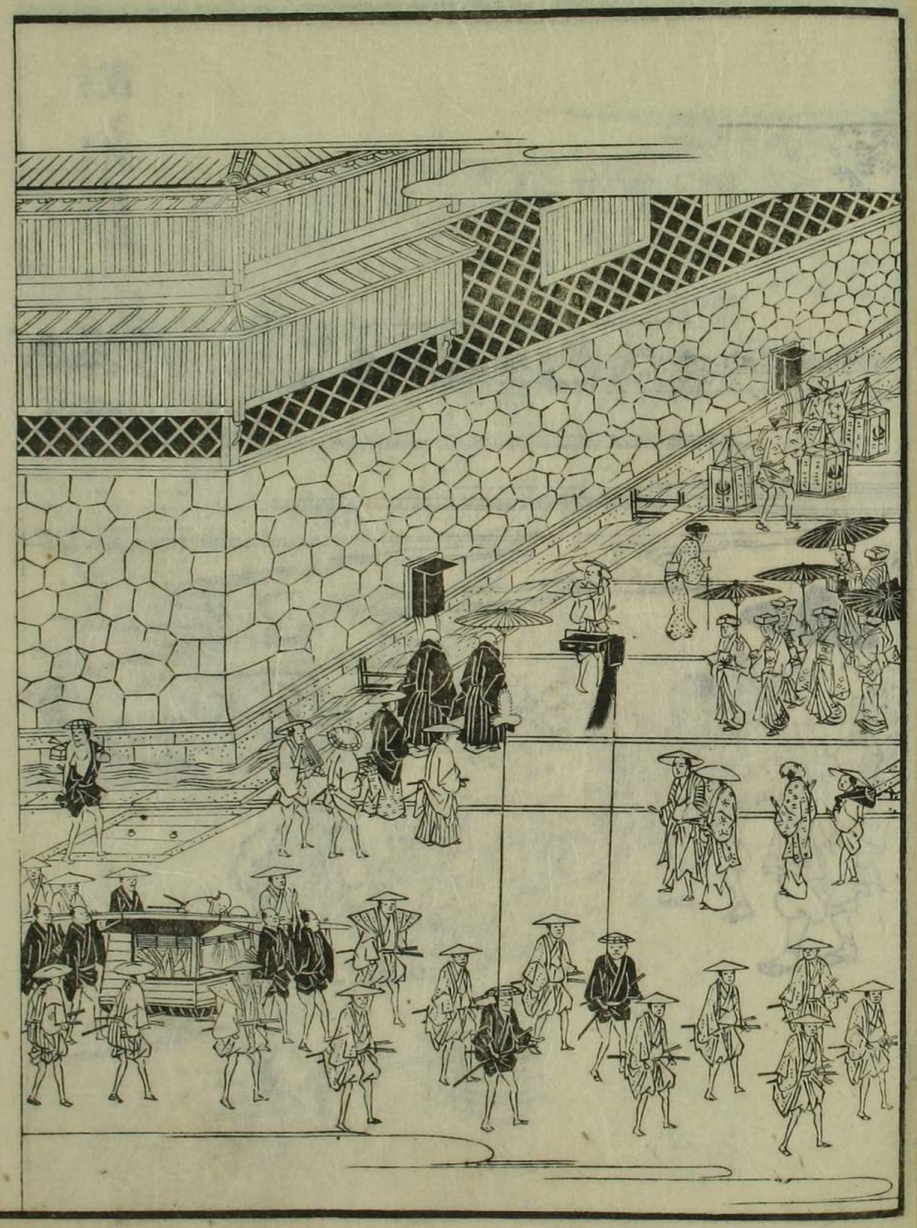
霞閑舊蹟　櫻田御門の南黒田家と浅野家とハ間の坂を

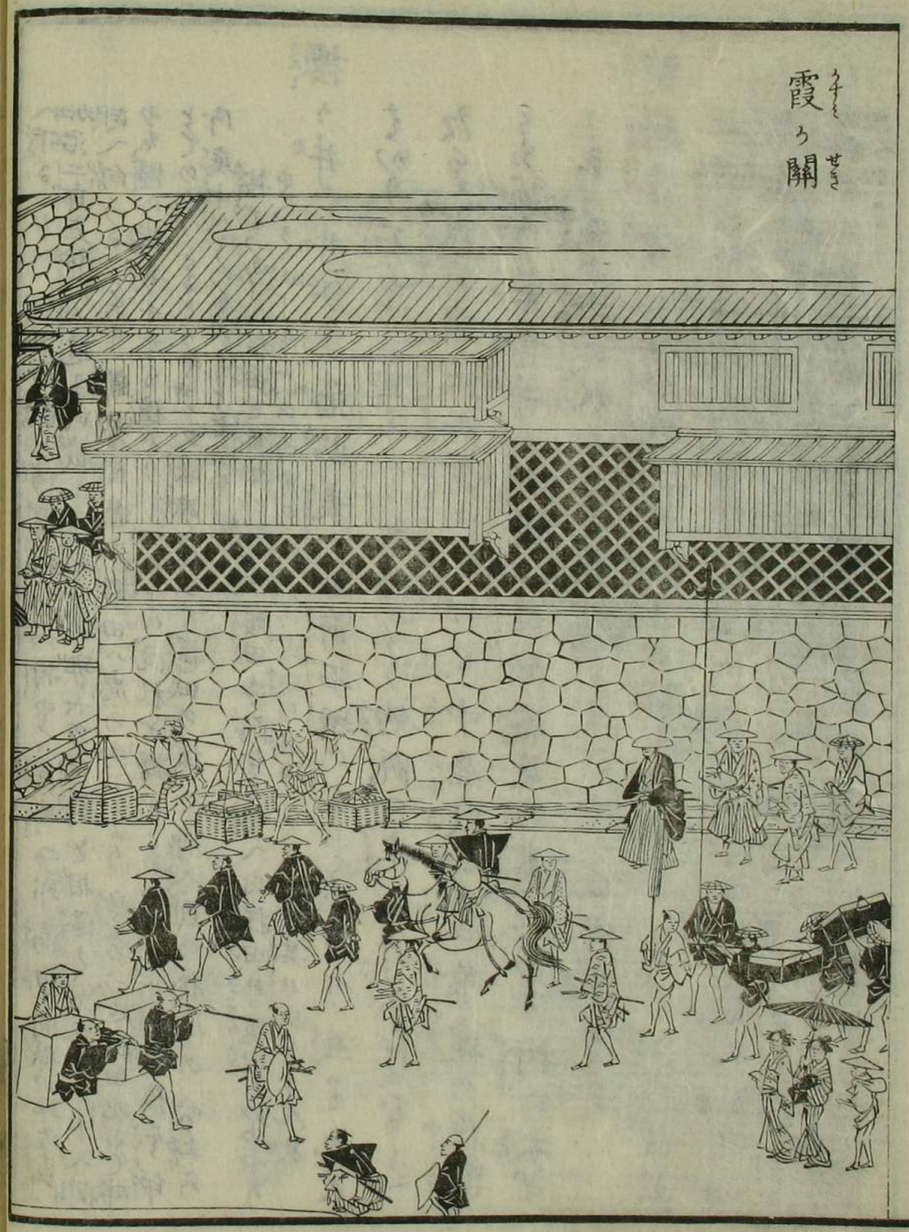
云往古の奥州街道ゆく開門のあるし地なり宗祇法師の名所方角抄に

霞ゐ閑ハ西より岳あり東向の西ハ西より河あり武蔵風土記ハ荏原郡東ハ多摩ゐ閑ゐ限るとあり此地今ハ豊島郡ゑ属せり

日村季吟翁云浮橋をすきく霞村とのハ霞ゐ閑の田地ありとゆくとあり村と

云地名ゆゑ

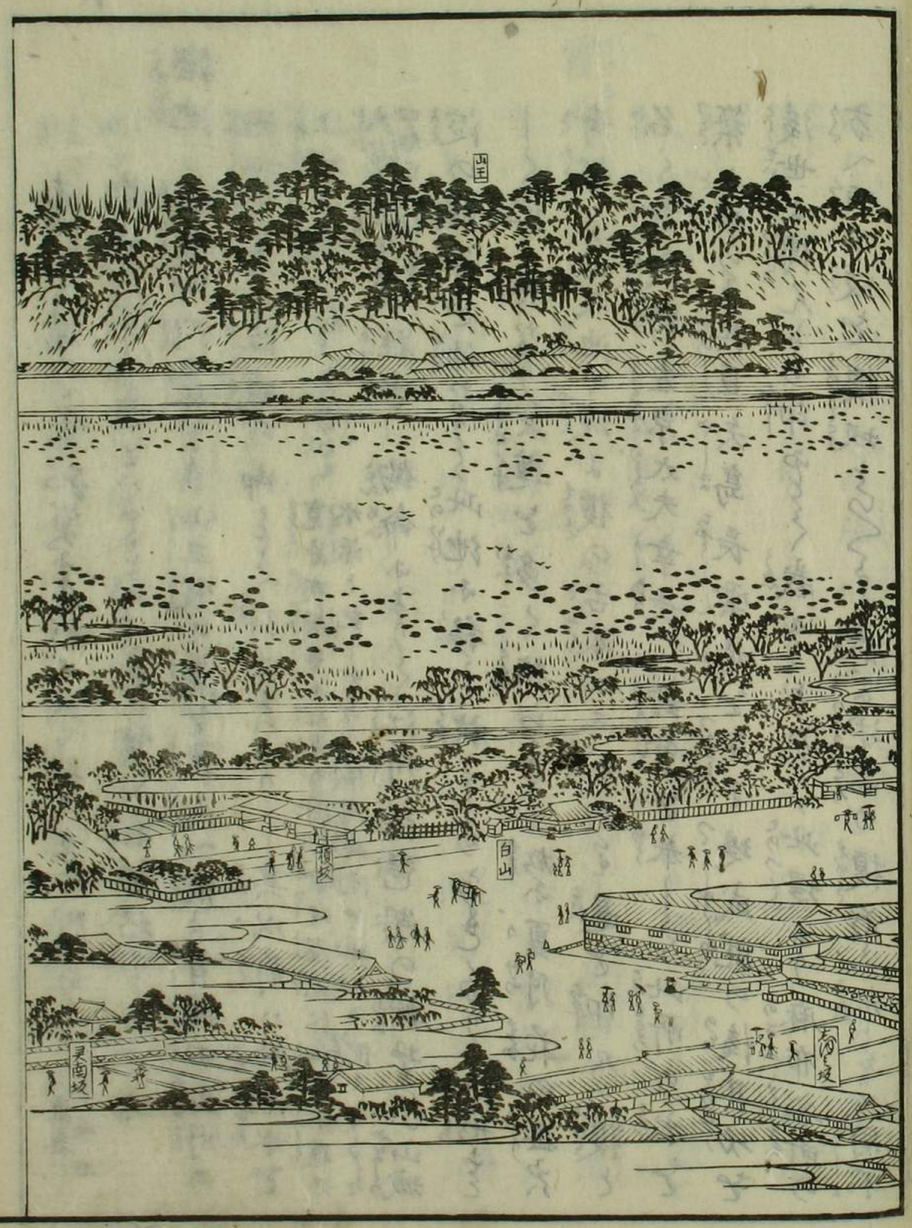


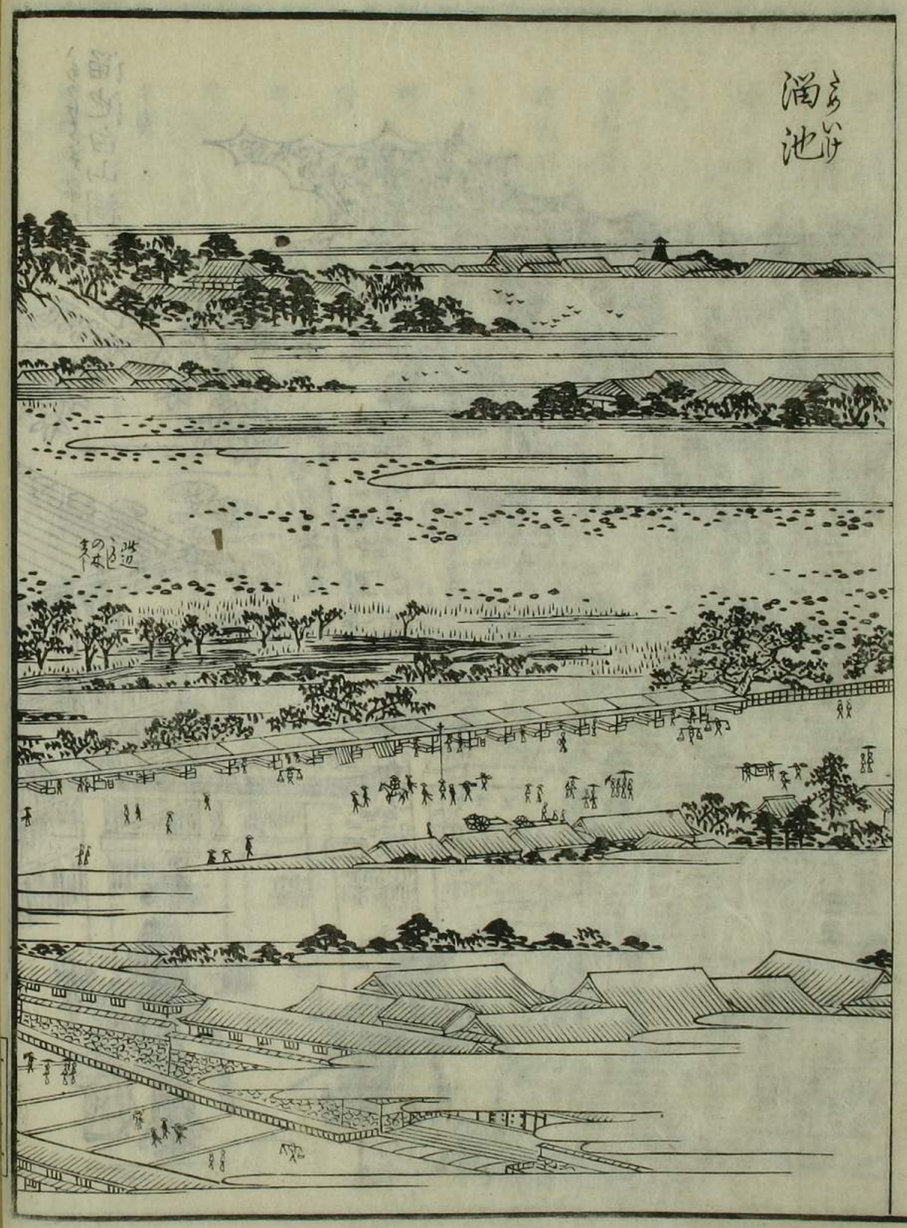

霞ゥ關

霞ヶ關古圖

武蔵野地名考云或古記曰　荏原郡霞關日本武
尊蝦夷之儲關也尓来連綿大被置之挙國之勝
景而然其遠眺隔雲霞故有霞關之號云云

續千載　為世
同　宣子
新拾遺　仙洞
新明題　亀山院
夫木　慈鎮
同　為守
同　光隨
同　為氏
名寄　顕氏
四國雑記


白山
白山


不忍池

あ川ま路の蒙ち笑ふ手数て我も於ふ立やかへらん　道奥准后

都ゆ〻いそく家をハよもとめ〻家の冥も去を行〻ん　同

溜池　赤坂御門の外より山王宮の麓を東南へ繞る昔神田玉川の

両上水いまゝ江城の御ゝへ引せあハさり〻其以前ハ此池水を

上水ゝ用られ〻とあ〻　寛永明暦等の江戸の圖ゝ赤坂溜池に江戸水道の水源と記してあり俗間此池を狭山の池とも〻ひて

大なる誤なり　四巻目ゝ詳あり　往古　釣命ゝ上ゝより〻江州琵琶湖の鮒地ひ山城

淀の鯉等を活な〻ら此池ゝ移し放さ〻めらも〻ふりとく開きて

し〻く他ゝ異なり又蓮を多く植られし故ゝ夏月花の盛ゝ

奇観〻も又池の堤ゝ榎の古木二三株あ〻是を印乃榎と

名く昔浅野左京太夫幸長　釣命を奉し〻く此所の水を

築止めらる其臣矢島長雲是を司る堤成就の後其功を

後世ゝ傳ん〻め印ゆ〻く裁る〻なり此堤より麻布谷町の

方へ下る坂を榎坂と〻く〻も前ゝ述ゝ如の榎ある故ゝ又同ゝ

堤の北の方辻番所の脇堰の傍ゝ葵を植る地あり　土俗

葵ゝ岡と唱ゝ〻ハせりこの所より東へ向ひく下る坂を葵

坂と号く

按ゝ小田原北条家の古文書太田新次郎所領ゝ江戸櫻田池今と〻地名を法華しかゝ〻ハ此溜池抔の〻を云ゝ〻ん歟

靈南坂　溜池の上より麻布へ登る坂を〻ん慶長の頃高輪の東禪

寺此地ゝあ〻　寛永九年の江戸図ゝハ東禪寺溜池の上ゝあり　彼寺の開山を靈南和尚と

称せ道光を慕ひく坂の号ゝ〻へ〻も〻潮見坂ハ同所松平

大和侯の表門前ゝ傍ゝく溜池の上より東へ下る坂を〻ん

江戸見坂ハ靈南坂の上より土岐牧野両家の北の脇を曲りて

西窪の方へ下る坂なり

麻布山善福寺　麻布雑色ゝあ〻　昔ハ亀子山と号く〻し　親鸞上人弘法乃

地ゆ〻く當宗開東七箇の大寺の一員了海上人開山た〻

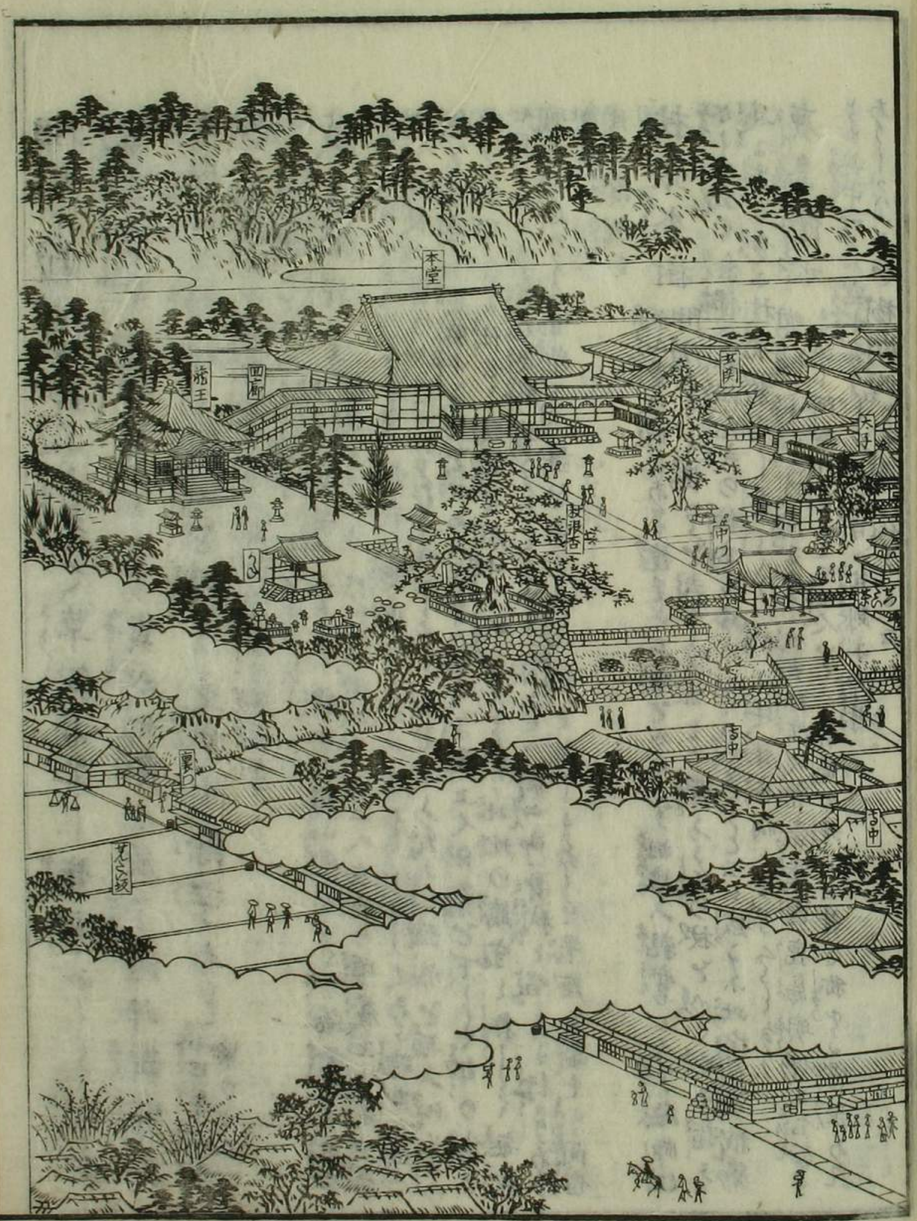
亀山帝の勅願本尊阿弥陀如来の像ハ恵心僧都の作なり

麻布善福寺

丙寅春過亀子山
善福寺櫻花下吟

獨憐不語無知己
偏向春風索咲多
怎奈遊人凭注目
也應拍手自相歌

心越禪師


本堂
赤玉
四天王
大子堂
閼伽井
中門
鐘楼
大子堂
中門
中門
中門

往古ハ南紀の野山ニ象て草創あるゝ梵宇ゆゝしく初て
真言蜜乘の勝區たりしゝ貞永元年壬辰了海師親鸞上人
の弘法ニ歸化し宗風を敬ふ支院十餘宇あり

小田原北条家の所領役帳ニ島津孫四郎所領の中ニ飯倉内櫻田善福寺分とある地名なり

當寺の開山堂ゆゝしく了海堂まゝ麻布

蔵王權現堂

本堂の南岳の上ニあり當寺の鎮守ニ蔵王權現老翁權現とも祈す法義を聽聞し開山了海上人在世の頃蔵王權現老翁の形ニ現し上人ハ本願一實の大道ハ我ハ是を喜ハ多ハ一面形と与ハ汝今ハ了海上人自分と下し自の像を造り其胎中ニ是を水ハ造し其神告ニ任せ假面を胎中ニ收ら造る此地の鎮守と称しゝ毎歳七月十五日草角力與行ハ開山所身拭と唱ふる行ハ則開山忌ハ此日新ニ水盤を造る彼木像を浴し平座ニ安せ平間僧徒等阿弥陀経を讀誦す

杖銀杏樹

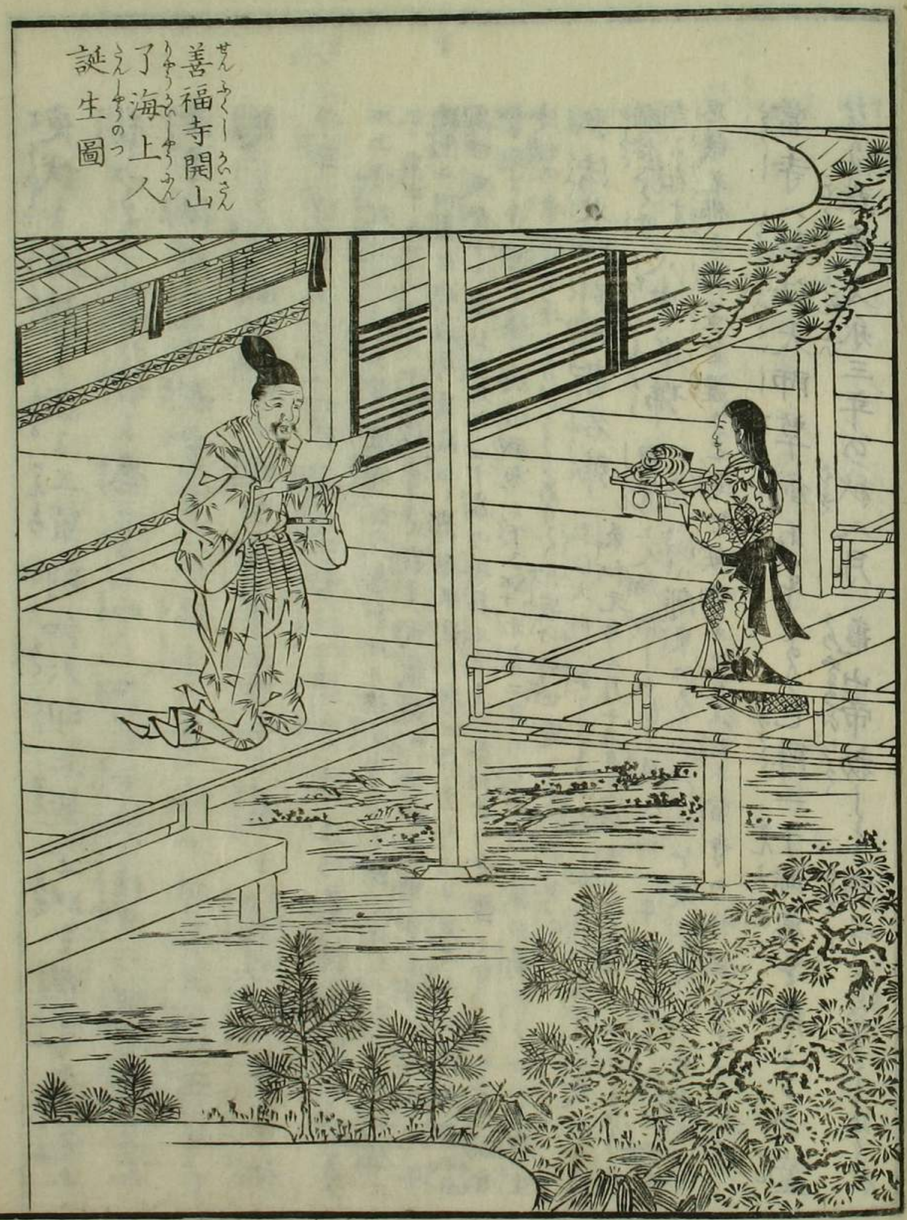
開山堂の前ニあり境内ハ石垣をめぐらす相傳ハ親鸞上人了海師に附法あり後ハ去ハ其の日その葉ハ杖ハ地ハ指ハ不し云く念佛の弘法凡夫の往生も疑ハ故ニ銀杏樹と云ハ然るハ此樹忽ニ根萌逆ニ生し竟ハ枝葉繁茂し蒼々たり

鹿島清水

往古弘法大師常陸國鹿島明神ハ夢ニ告ハ悠門と中門との間ニ阿仏井あり又土人鹿島の地ニ七井と称する靈泉あれ其中一ツハ空水あり背ハ其側ハ柳樹あり一名を楊柳水とも唱へ往ハ云く

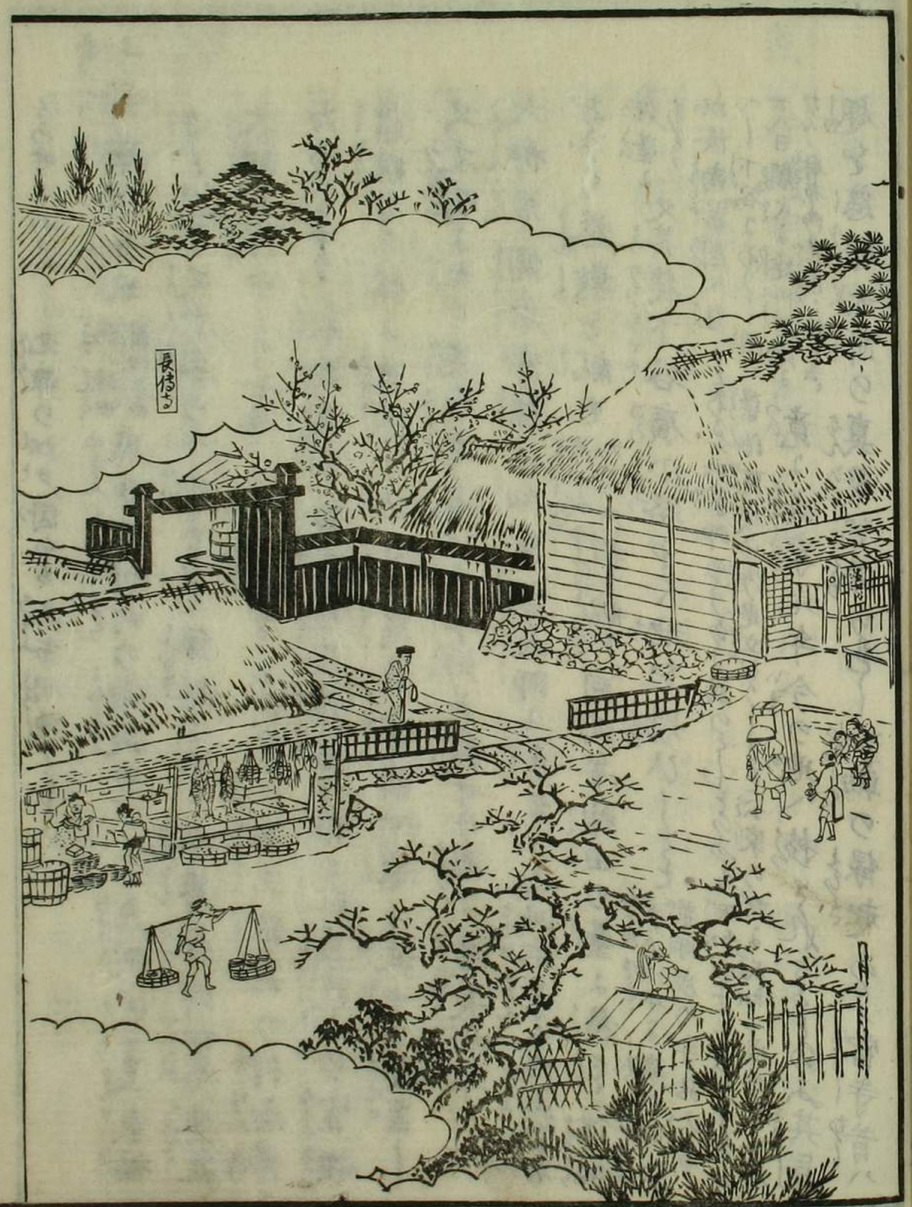
寺記云中興開山了海上人ハ鳥羽院の苗裔左大臣藤原信實公の息男なり信實公故あり當國ニ放れ品川の近邑にあり今の大井村ハ其旧地なり第二巻信實公一子あるを憂と蔵王權現ハ祈大井弘福寺の条下ニ詳なり請しゝひられハ其室白布を呑と夢見く懐胎し建仁元年辛酉林鐘十五日ニ一男子を誕生せ了海上人其時後園松樹の下に忽然と清泉涌出せり此故ハ了海上人の幼名を松君と号け里の名を大井と孔大井弘福寺の条下ニ詳

依人皆奇異とす此児七歳の春父ハ告く出離の志あるを頭ハ
せり故ハ實相寺の範賢律師ハ投し鬢髪を剃除しゝ了海と号く
一書ニ嵩山ニ登り静栄僧都ハ是より後數学窓ニ身を委孫諸宗を濟
竟ニ古郷ハ歸る本願弘興の基趾を求めんと則蔵王權現の
叢祠ニ詣し是を祈る靈瑞ハよりく此地ハ至るニ一精舍あり
今の善福寺是なり神の教るを知りくこゝハ止住し年を歴り然ニ貞永
元年壬辰親鸞上人東國経回の時適當寺ニ入りくハ海師其


善福寺開山
了海上人
誕生圖

夜試より屈請し談ず三蜜論伽六即止観を以て親鸞上人是ホ
答ふるの響の音ず應ずるうめし竟ず念佛往生の理を論ずホ
至ず海師直ず親鸞上人の弘法ず帰降し師資の約厳ずして
是より宗風を悉し化を布ず遠近ず普し　直弟六老僧の随一と称す　後永仁
二年甲午十一月六日前念命終後念即生の素懐を遂られう
以上寺記及ひ二十四輩霊場記の意を採る佛光寺の実録ず云く了海上人ハ元應二
年庚申正月廿八日八十二歳ず寂す武蔵國阿佐布善福寺と号し延應元年
誕生せ四歳の時祖師圓寂云く傳燈系図元應二年十月六日寂又大谷遺跡録ホ云
高祖滅後十六年弘安元年四十歳の頃異正寺ず入第四世の寺務となり永仁五年願念
誓海ず寺務を譲ず武州麻布ず下る五十元應二年の春正月化縁の薪尽く廿八日即生
凌虚の素懐を遂ふ寂の時世違へ可考の
弘法大師刷毛書名號　前の年再ひ當寺に来ず多ふ
猶信ず當寺ず存す　八字名號　親鸞上人帰洛し後海師一年都へ登り上人ホ謁せ
寺ず存す　上人云く海ハ朝東にあり門徒を教化せ南无不可
思議光佛と翰墨を濯ふと是を海師ず授ふ當寺の什宝となり
當寺ハ弘法大師草創あるより已降一千餘歳を経る古藍
なり殊更文永三年の秋八月　亀山帝勅し願寺となるし
萬神一負誥聖及ひ俸田を賜ふ境内ず古墳多く最古跡ず
明け今一向専修の宗風盛ず化導遠近ず普し
一本松　同所北の裏通り一本松町道の傍ずあり一株の松ず注連を
懸其下ホ垣を廻らせり里諺ず云く六孫王経基此地を過る頃此
松ず衣冠を懸ふ冠松の名あり其餘さまざまの説あれども
分明ならず今此辺を一本松と号し地名となり或云小野
篁ず植る所ありとも
接ず永川明神の別當德乗院より此説是なり　松ハ永川の神木なれとも背の松ハ枯く今善木を植置り
永川明神社　同通り南の方上野町道より左側ずあり麻布の惣鎮
守ず祭礼ハ八月十七日なり相傳ふ文明年間太田道灌當國
一宮永川明神ず勧請する所ず旧地ハ同所宮村の切通坂に
あるし別當ハ真言宗ず德乗寺と号す　古老云背の二鳥井ハ同所長坂ずあり又
三の鳥井ハ今所谷鳥井坂の地なり其日地今ハ緣山の住持退隠の地なれ
露白和尚寛文二年の九月ず此地ず隠栖あり其頃今の所へ社を

麻布一本松


長信寺

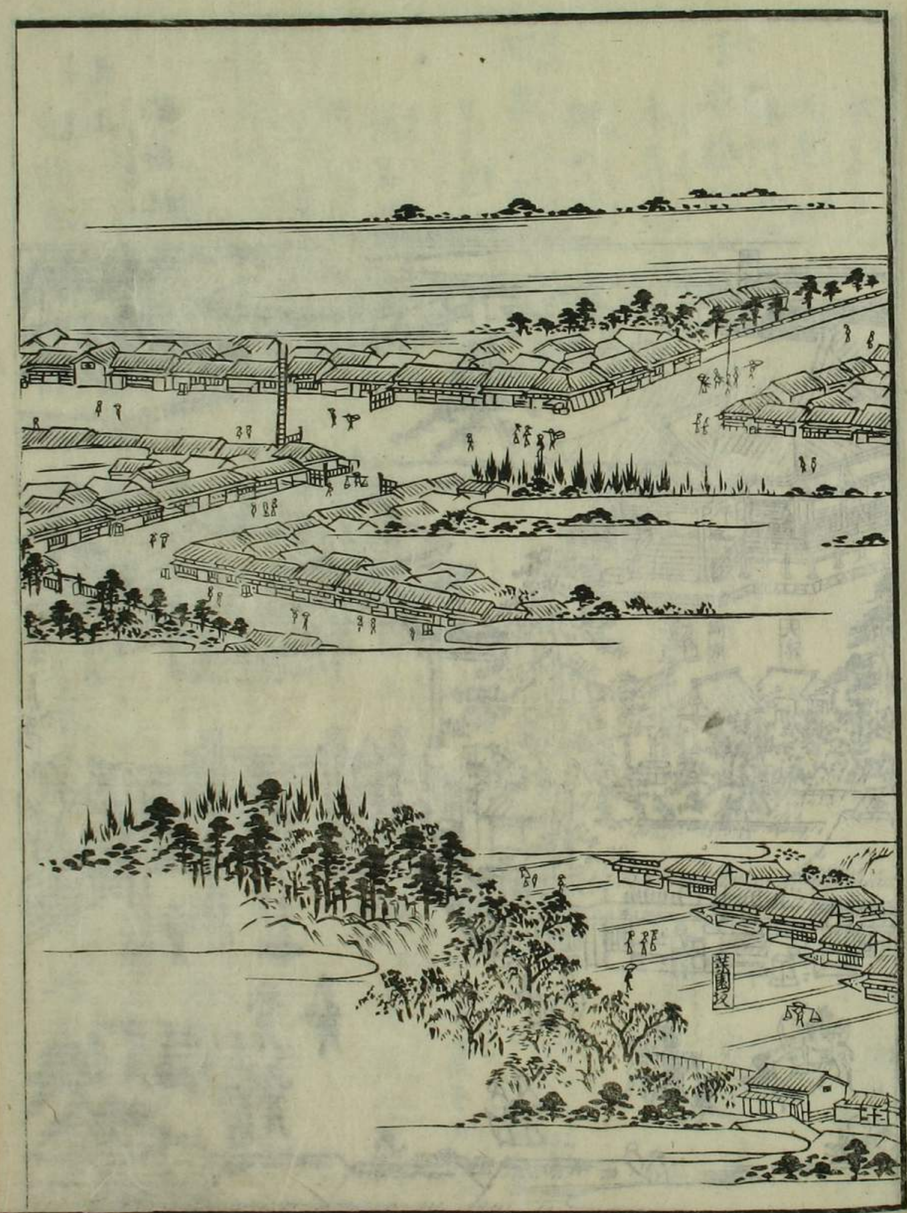
うつせーかくー元禄の江戸図ゆゑ麻布明神とあり

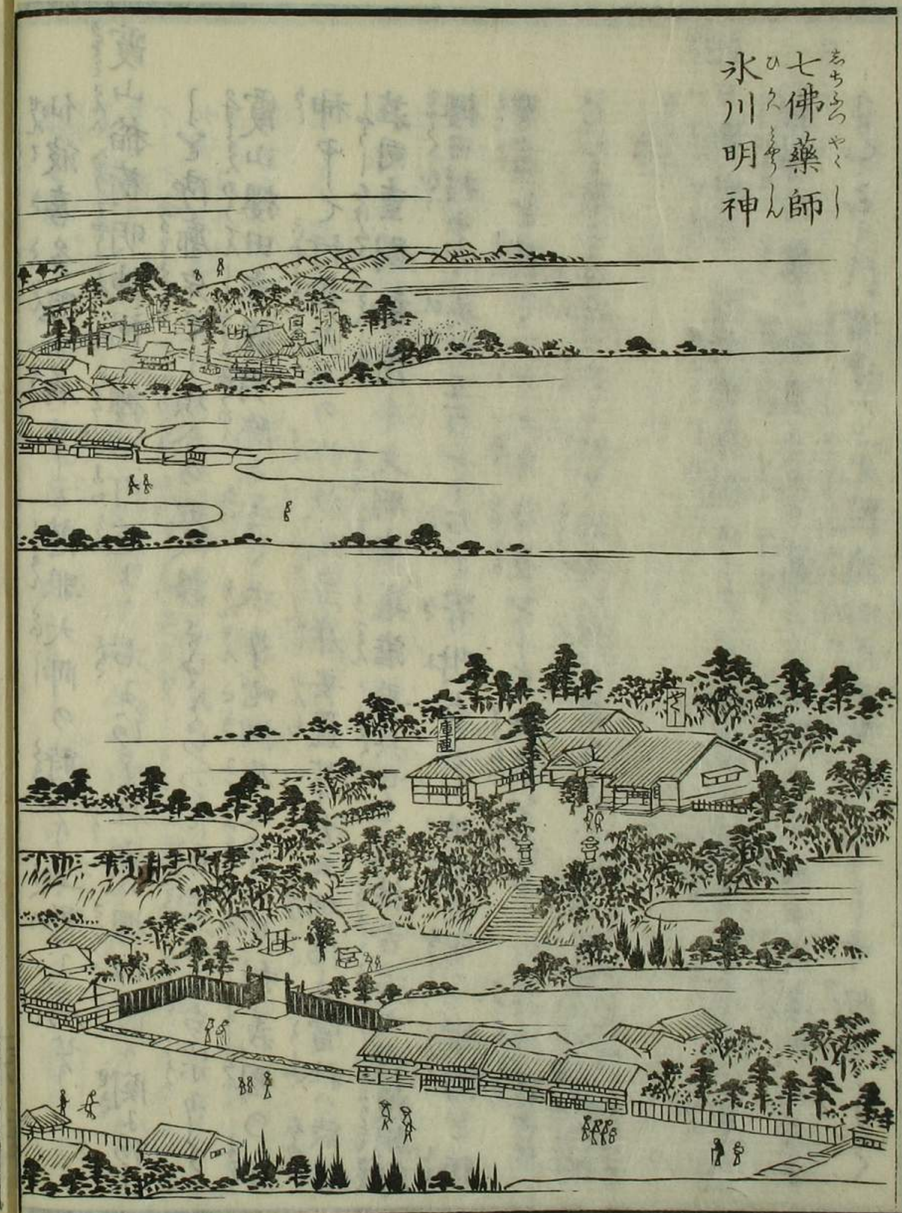
七佛藥師如来（或ハ神田藥師と云）麻布本村町の南坂の下リ口左側医王山東福寺といふる天台宗の寺内よりある縁起ニ云く本尊藥師如来ハ傳教大師の作ゆーく七佛の其一員ありそのく六孫王経基の持念佛たりーゆゑり永業年間頼義朝臣鎌倉へ移され後代くの官領崇敬あり然ニ長禄の頃太田道真當國河越の城中ニ安置し又文明ニ至リ其子道灌江戸平川ニ移せり然ニ慶長五年大神君開原御陣の砌慈眼大師ニ命せーも此本尊ゆゑ御祈念ありく巻數を献せ（今此例ハ平五河臺ニ又其後下谷廣小路ゆく地を賜ひーくそ九月庚申社を献す）同九年神田の臺ニ移さる（其旧地今の駿河台ハ紫の一本ニ廣小路の茶師成の年社火事以後南茶園へ移るとあり）（茶師ハ此茶園へーー下谷ニ移りーー頃ハ崇源院殿の御建立ありーーとも公家の記ニ天和二成年十二月廿八日類火ニ逢ひ用地ニ麻布御茶園ニ移ると云）竟ニ貞享元年今の地へ移されくるものゆ其旨趣を慈眼大師の真筆を深らもーー一軸の縁起あり當寺昔ハ

仙波喜多院ニ属せーう慈眼大師の時より上野ニ属せり

霞山稲荷明神祠　櫻田町道より右ニ折る往古ハ櫻田霞ヶ関ニ在りーを御廟定めーー頃今の地へ移さるとあり別當ハ天台宗ゆーく霞山櫻田寺観明院と号く本尊吒枳尼天像ハ足利義國の守神ゆーて行基大士の作秩父重康安置せりと云相伝ふ當社ハ渋谷荘司重國勧請ーー文明中道灌再興せり又往古右大將頼朝卿櫻田村ゆく美田五百七十石を寄附ありく供田の印ニ櫻樹を植要害を構く江戸太郎重長をーて往来を改やーむ其後遥ニ年月を歴く此地と共ニ社を麻布へ移されーとあり（今麻布櫻田町百姓町抔号くハ則櫻田より一町なり）

朝日觀世音　同向側專稱寺とのふる浄家の精舎に安置ゆ本尊觀音の像ハ長者ろ丸の叢より出現あるも故ニ作者何人なるるとも知ーく當寺ハ三光院清心尼の開創ありーー寺院ゆーく




七佛藥師
氷川明神

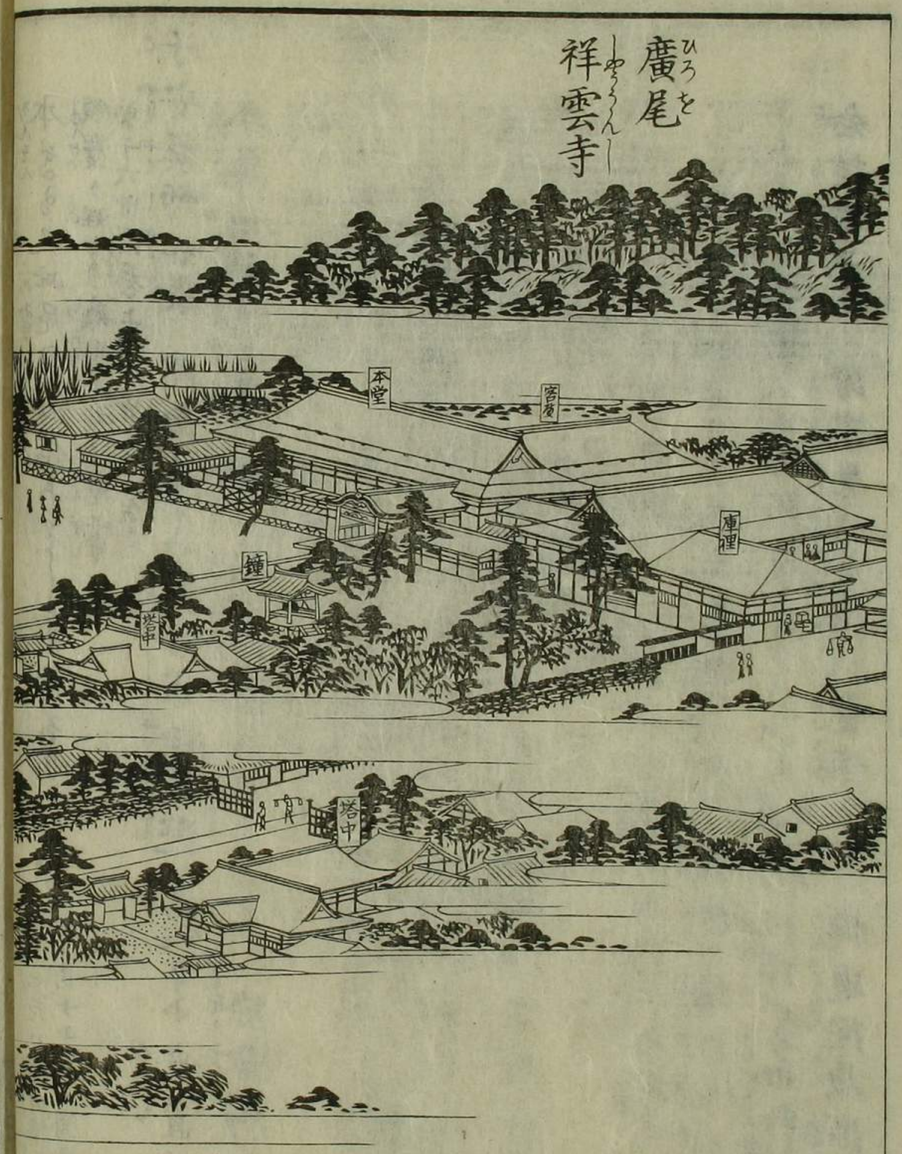
霞山
稲荷社

本堂
鐘楼
天神
門番

本尊も又此尼の尊信あつく霊佛ありといへり清心尼ハ織田信長公の侍女やがて筒井の
順慶の姪なり薙髪して後増上寺
第十六世深誉上人の弟子となる

子安薬師如来　同南ニ並ム真言宗正光院とのゝ中ニ安置す
本尊瑠璃光如来の像ハ恵心僧都の作なり　一條帝御降
誕の時の御祈願の本尊なりしと云伝ふ
北条家の領役帳ニ奥津加賀守櫻田の内平尾の地を領すとあり　櫻田ニ属
瑞泉山祥雲禅寺　廣尾町ニあり
せり覚花洛大徳寺汎の禅刹なり　釋尊を安置す開山ハ
龍岳大和尚開基ハ松平筑前守長政なり　祥雲ハ則其法号ニ　支院八宇ひ
背ハ赤坂の藩邸ニ麻布谷町の上の方へ
うし竟ニ明暦四年今の地ニ引
毘沙門天　同所四丁斗巽の方渋谷川の北岸多門山天現寺と
いふ禅刹ニ安置せり本尊毘沙門天の霊像ハ樟の丸木作
なり聖徳太子の彫造ありといへり　其丈三尺一寸　相伝ふ多田満仲の
念持佛なり源家累代守護の霊像なり　傳通院殿深く

廣尾祥雲寺



鐘

廣尾
毘沙門堂
毘沙門堂
別當

信春より安部摂津守信春に御預あり其後仙石因幡守久信の家に伝へ又祥雲寺より収め竟に當寺を開創し始てこゝに安置せり

（来由の記は林学士信充先生の文章に詳しく當寺の什宝なり）

武州豊島郡城南麻布邑多聞山天現禅寺毘沙門天王縁起

毘沙門者北方天王也福徳之名聞四方而號多聞也西土以北方為上北方多聞之名乃明著矣護四埵之水精埵將諸閻又衆無量百千以為眷屬也

有一尊像于此相傳我東照君尊安公傳通院殿祈參州鳳来寺峯藥師也時十二神之中寅神應靈夢之祥故因母公之訓命崇尊弓蓋聖德太子以寅歳降誕木手自作之其長三尺一寸源家嫡流贈正一位満慈眼大師書尊像也良有以哉

東照大師公所傳來尊像也

推現守御本尊之九字于扶木傷其筆痕今尚存矣

君每臨攻城野戰無不携行此像也扶群賊超類撥亂反正掌握天下安撫海内者乃此像之威德也唐天寶年中西涼府之圍臨危而誦仁王蜜語見金鼠咬獻弩弦皆絶矣咸通中其見神人五百負且見此靈所成也倭漢雖異所謂西川現僧相天王者皆信從誠同矣

光孝天皇御陵石燈籠（毘沙門堂の前左の方にあり）

（古雅なる影石の燈籠中に甚寄附なりと）

土筆ヶ原　渋谷川の南の原を古へ名く此辺を豊澤の里と呼へり上中下よりなる渋谷の地に属せり

鷺森神明宮　同所相模殿橋より南の方田島町の右にあり別当八天台宗にして祭礼八月廿八日なり相傳

後冷泉院の御宇頼義朝臣東征凱奇の時白旗を収め祀る

命預香華供養之事信春亦以寅歳奉護之也嫡子彌市郎信包亦寅歳而愈恭仰不尅也信包嘗衛護大坂城之初年鎮坐其城内也歴年之後官命無及此像吏故於江府品川私第揄地建堂自茲任摂州刺史官祿增益然有故過九十旬其曾孫信峯任丹波刺史尚猶傳之然贈仙石壹岐守久信傳之尚矣平生通志于祥雲寺怡谿和尚甚厚也久信馳使介告怡谿曰靈像頻辻座之靈夢數多也久信母見有靈夢且有俗家不堪恐懼也怡谿任其志移之寺内法子良堂和尚感其像之重其験之大新建天現寺安此像于一堂以祈妙験矣頃間請僕記其来由

毘沙門天王縁起終

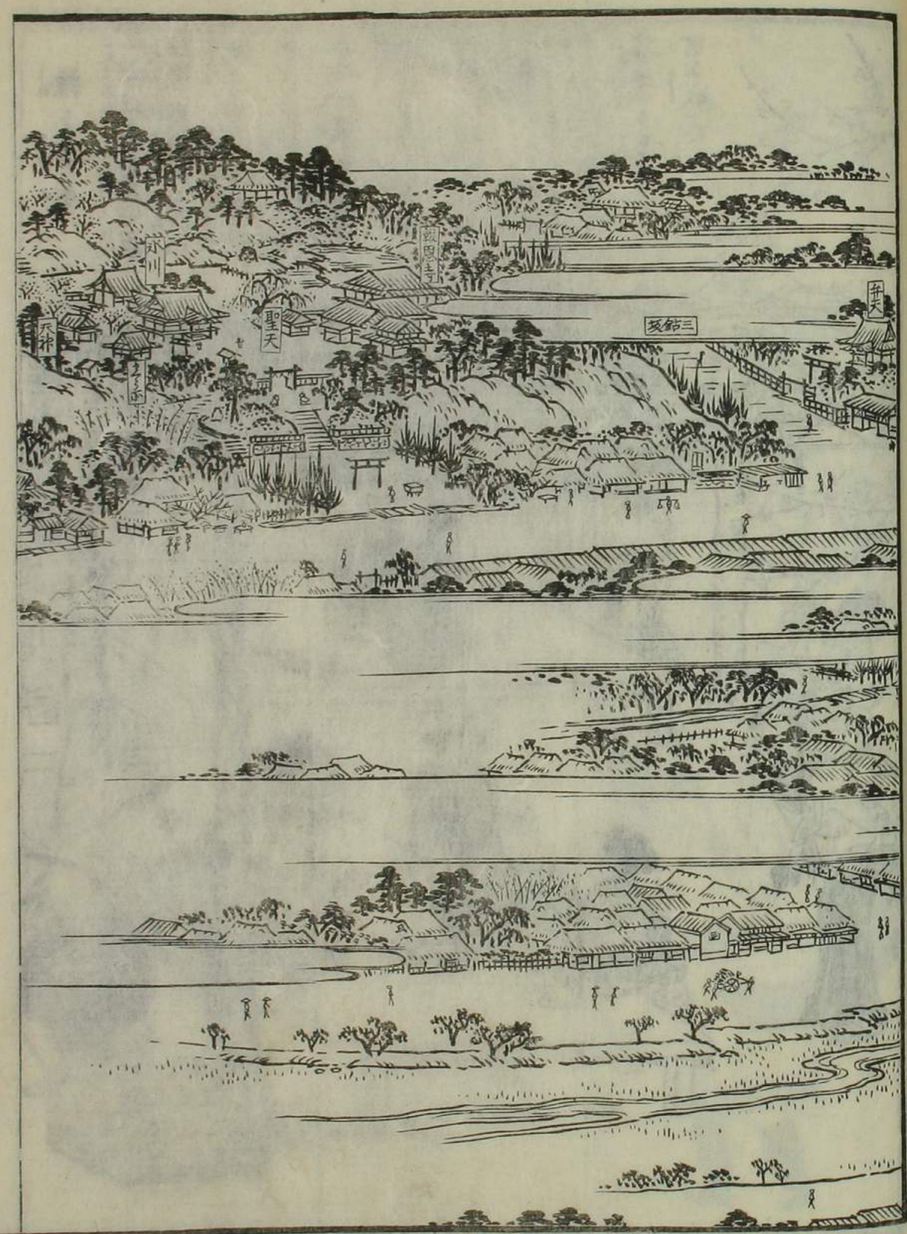
不能黙止云爾

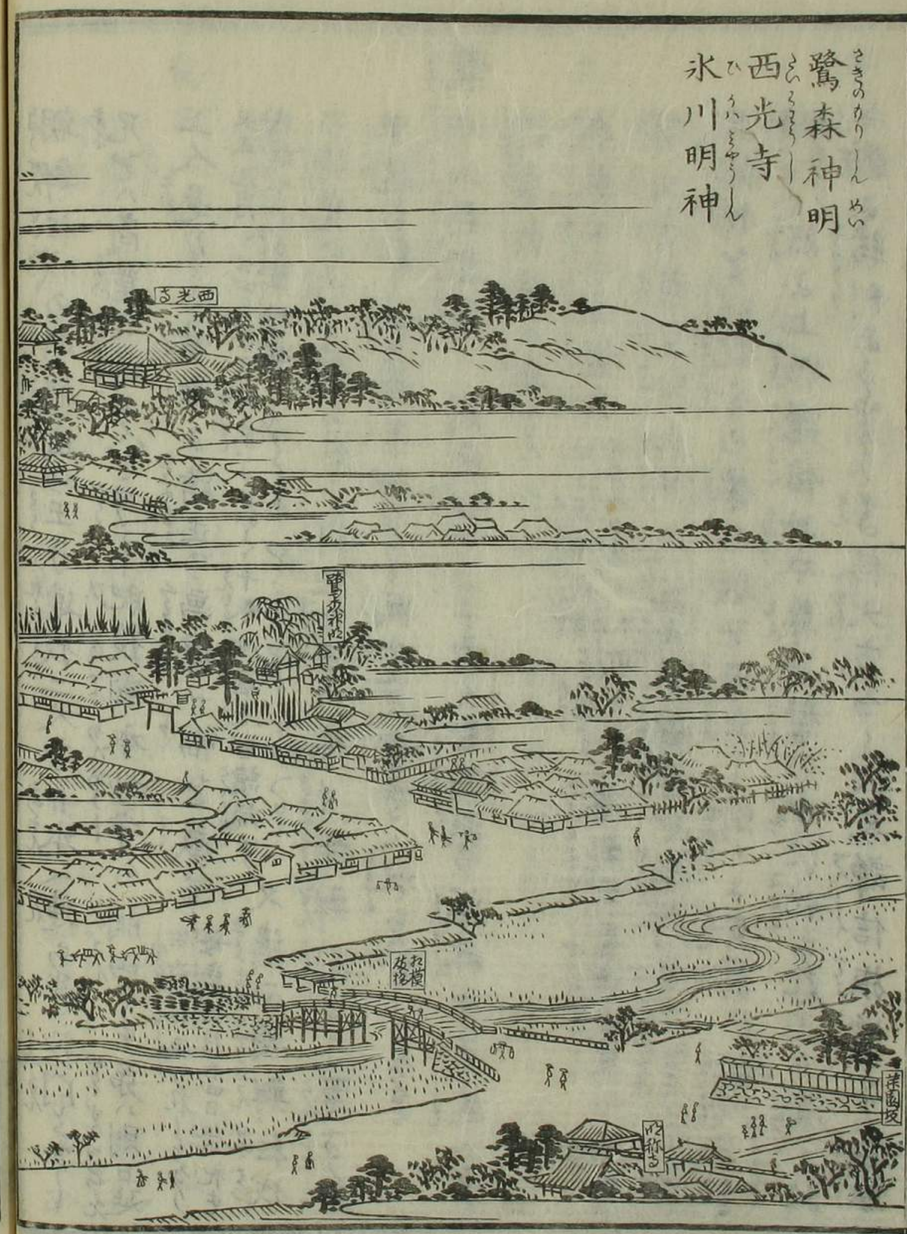
廣尾原

廣尾
水車

氷川明神社　同所南の方三鈷坂の下東の通り右側よりあり白銀の
鎮守ゆゑ祭礼ハ九月十九日なり俗云日本武尊當國一宮氷川の
御神を遥拝しゆゑ旧跡なりとそ
雷電宮　同社地より北の方相徒ふ白河院の時宇當國疫疾流行す氷川明神の
神託あるゆゑこの清神を勧請すと云千手観音を本地佛とす
冬嶺山松秀寺　同所東の方一丁斗を隔つ相州藤澤清浄光寺
の末寺ゆゑ時宗の道場なり昔ハ武州高井土よりゑ常光
寺とのひ遊行上人の宿寺なりしを宝暦二年壬申此地へ移れり
其時より松中與閑山ハ遊行五十世快存上人と号ス
延命地蔵菩薩　當寺へ安置を徳一大師の作ゆゑ頗る霊験あり祈願
称せり常よりある輩日数を定めこれを念ず故ゆ道俗日限地蔵と
詣人絶ず
最正山覚林寺　樹木谷道より右ゆゑ日蓮宗ゆゑ房州
小湊の誕生寺ゆ属を元禄年中の開創ゆゑ閑山を可観院
日延上人と号ス小湊十八代の住持ゆゑ相傳ふ昔加藤主計頭清正
此地ゆ隠棲あり

朝鮮征伐の時彼國の王子連枝二人を日本へ連られ沙門とゆゑ
兄ハ高麗日遥上人と号し肥後國本妙寺の開山とそ弟ハ則日延
上人是なり當寺ゆ清正の画像一幅を蔵す生前自画ゆゑ毎歳六月廿四日祭祀を
正五九月ハ廿四日毎ゆ神前ゆ地蔵十羅陀羅尼を讀誦す又清正朝鮮征伐
武運を祈る輩利益をゆゑ
の時兜の内ゆ籠られし釋迦如来の像并朝鮮國より軍ゆを
申送られし書簡等何ゆも閑山工人當寺へ収られしとそ
龍吟山與雲院　同所坂の上ゆあり曹洞派の禅林ゆゑ芝二本
榎廣岳院ゆ属す
本尊十一面観音西方廿五番の札所なり世ゆ実食観音とも称す　縁起云聖武天皇の御宇
誓文會誓主勲和州長谷寺の観音を彫刻なしまりし頃
其餘材を以観音の像七軀を造立し所々ゆ安置ゆ當寺の其一ゆ
長一寸八分あり然ゆ上杉謙信此本尊を警の中に収られしゆ度々北
合戦ゆ勝利あるゆゑ信大方ゆゑ又謙信旅僧より立像


氷川
聖天
三鈷坂
弁天

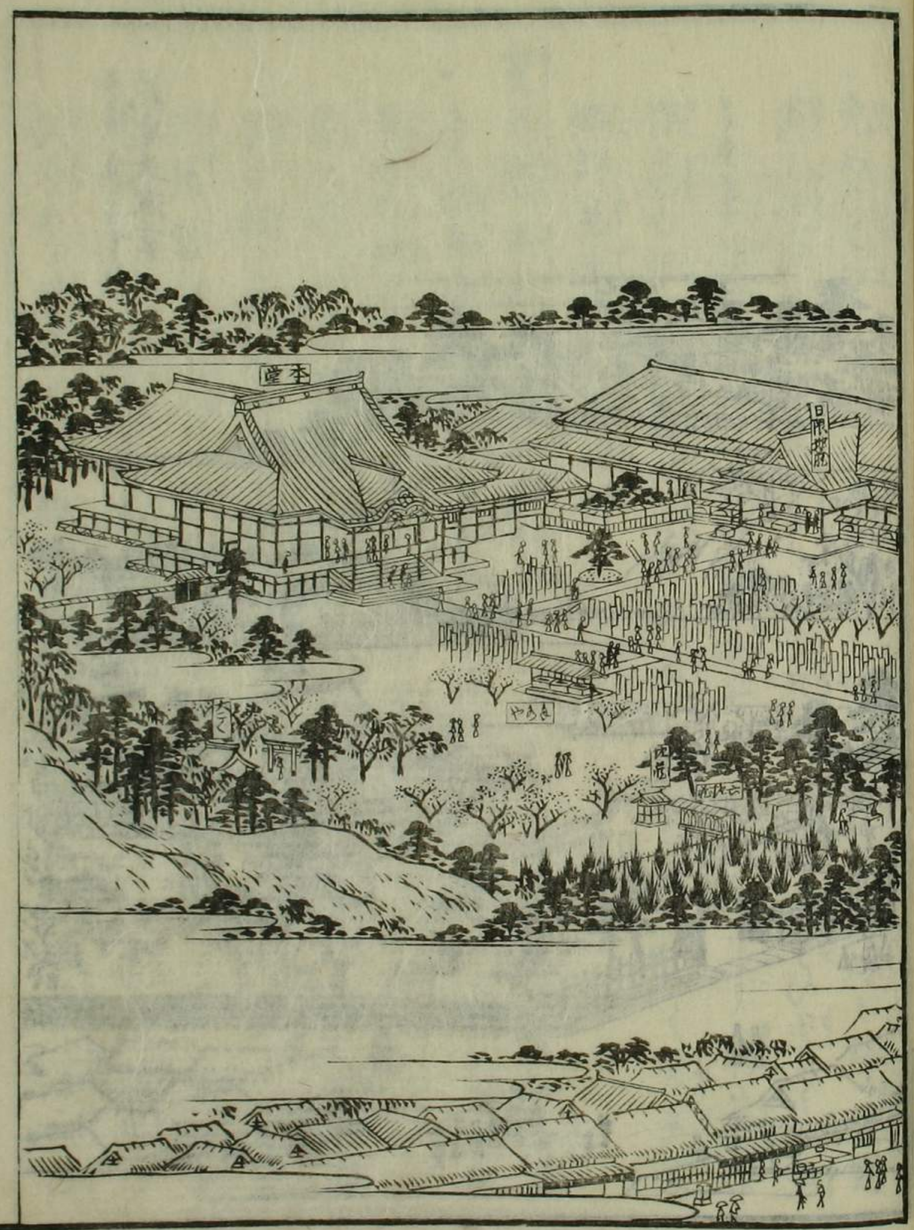

西光寺
氷川明神
鷺森神明
西光寺
氷川明神
松樹
花橋
若宮坂

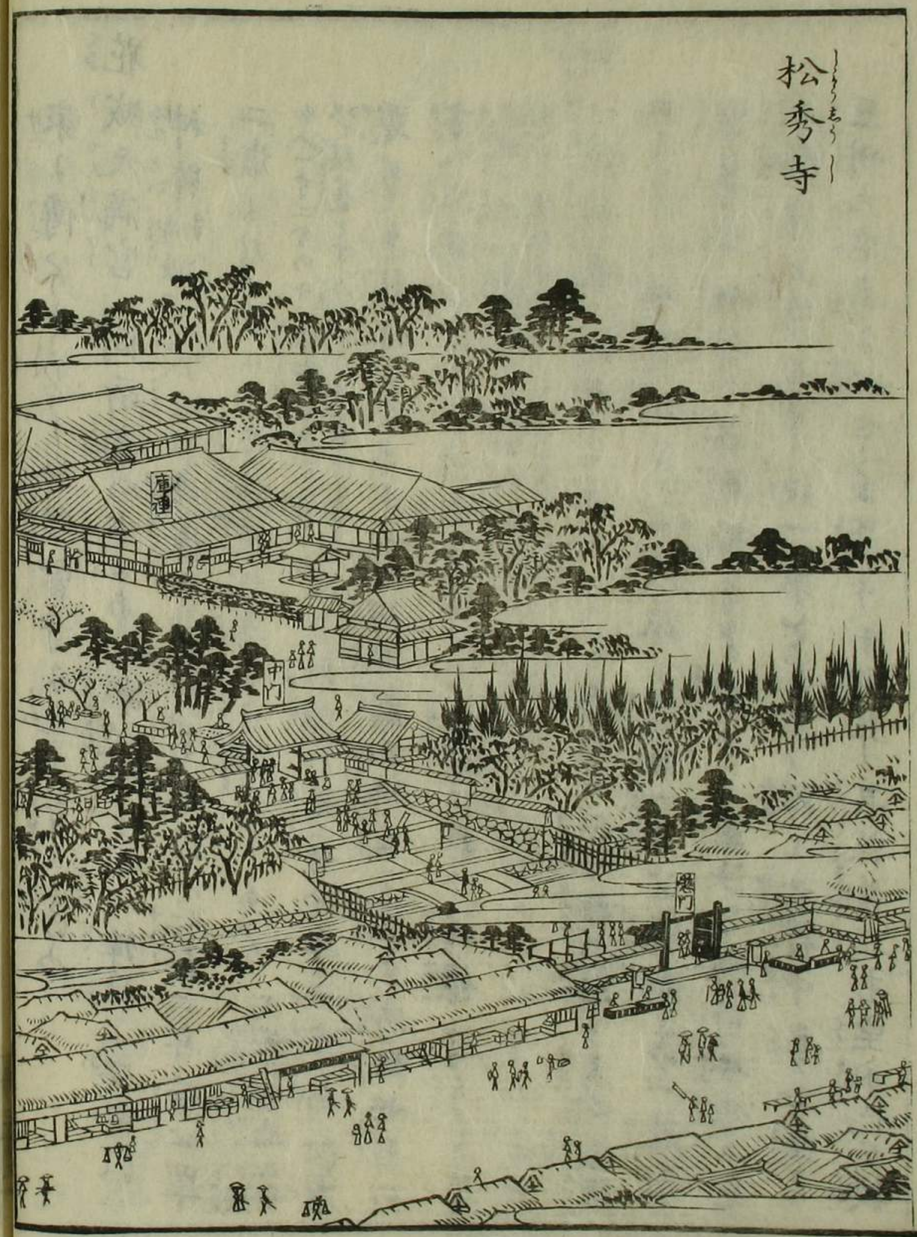
梅ゝ茶屋

三鈷坂より左の方
白銀氷川の社れ
側まあり一年遊行
五十二世他阿一海
上人此家の梅を
愛たまひ一首の
和哥を詠せらる
白梅ゆゝく床梅と
号くるのゝ二月の
芬芳もこゝろ
世ゝ越て高

二尺の千手大悲の像を附屬せられしより先の小像は
其佛胎の中に籠られしより往昔佛工定朝信州善光寺ゟ
恭籠せし頃彼寺燒亡も其時灰燼の中ゟ一本の柱燒残るく
あり寺僧ゟ問ハ此柱ハ衆喰の柱と称して當時初建立の時老
翁此木を負来る西の柱とも云へしと云終る後其形方を去る
然ゟ件の柱より夜〻光明を放つ中ゟ虫食〻跡自然ゟ文字
をなせり
待僕〻恨ゟ者ゟ人のいのをいつとて急ぐさるらん
とあり依て虫食の柱とのゝを此柱三度迫燒亡の其火災を除れて
今ゟ存して今又ゟ如と語る然るゟ夜寺内の僧徒皆夢
〻此柱を以て像材とし佛工定朝をして觀音二軀を彫
刻せしめ一軀ハ善光寺ゟ送ゟ一軀ハ笈ゟ移し結縁の為
定朝ゟ自ら脊負しめ諸國を経歴せしむ故やあらむ上杉

家ゟ傳ふくありしを後當寺ゟ迎へ奉るとゝ
花城天満宮　同所南の方ゟあり松久寺とゝつる禪林ゟ安置に
神躰（御長三寸八分）菅公の御作ありといつる相傳ゟ仁和二年菅公四十
二歳ゟなるせのゝ春除厄の為ゟ自彫刻しゝ（十五歳の時念願成就の為造らせ
のゝ一寸二分の十一面觀音大士の像を又云此像ハ延喜元年大宰帥に左
遷せらるゝ彼地ゟ至るゝ頃河内國土師里ゟ在る御叔母君の
以て腰籠とす今ハ別ゟ安置しまる
方へ立寄らせゝひ御紀念ゟとく奉られし肖像なりと
文祿の頃加藤家の臣山田氏
某あり當寺ゟ安置し奉りゝ
英一蝶翁墓　同所より二町ゟ南の方二本榎の通り左側兼教
寺ゟあり一蝶翁姓ハ多賀氏諱ハ信香一名を朝湖とゝ曉雲
翠蓑隣蕉等ハ其別號なり幼より畫法を狩野安信ゟ受
尤新意洒落ゟしく後一家をなせり然ゟ元祿中事ゟ坐く
豆州三宅島ゟ謫せらる居る十餘年其技益進む宝永己丑赦

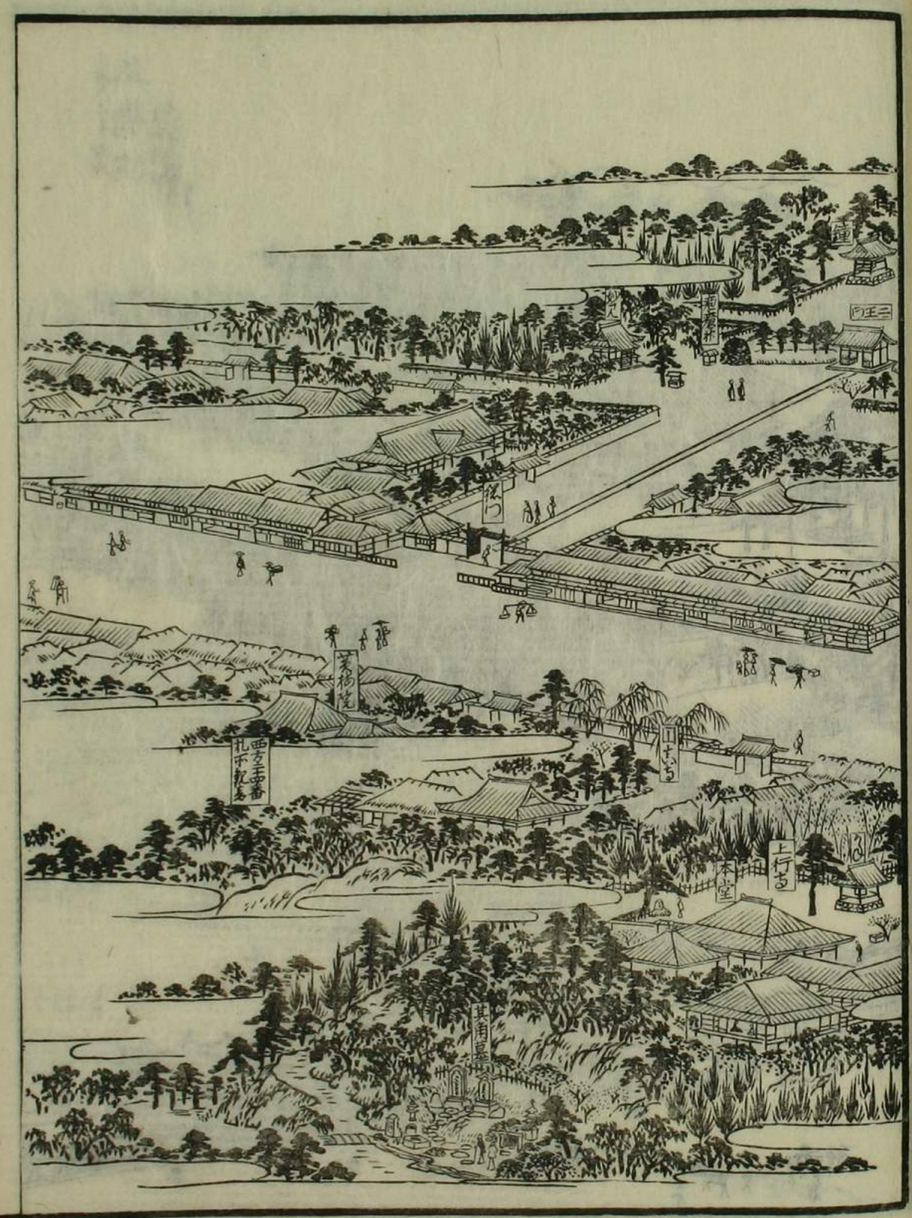

本堂
旧開山堂

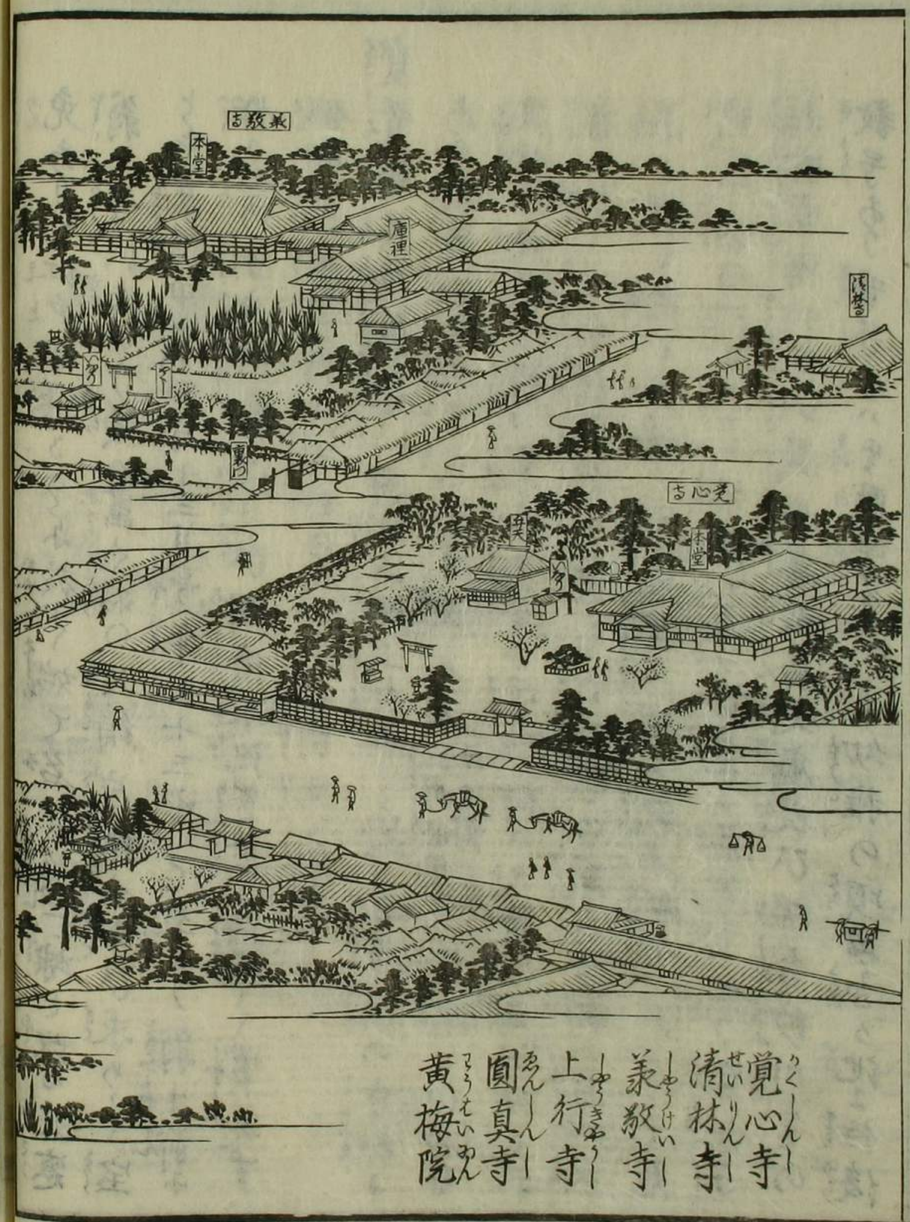

松秀寺
庫裏

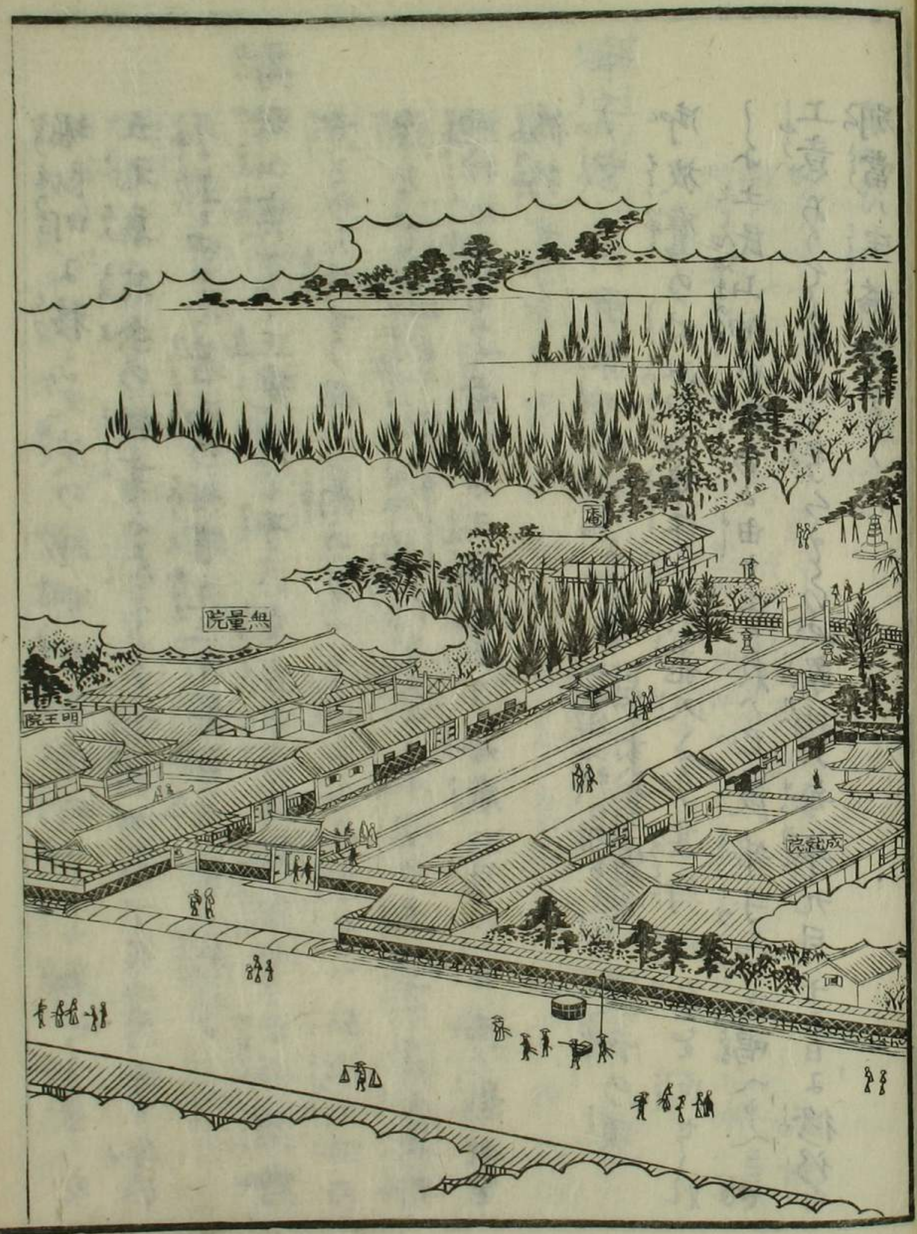
免ありて江戸より帰るこゝに於て始て名を英一蝶と改め北窓翁と号し夫より後ハ畫くゝ所の尺絹片紙人爭ひ求めゝ宝とも享保甲辰正月十三日亭年七十三ヤ〳〵て卒す翁生前ハ作る所の朝妻舟畫瓚及ひ朝清水紀等世ハ使〳〵賞美す

俳師芭蕉其角と同時の人ハ〳〵朋友こゝ

寶晋齋其角翁墓　同向ハ側上行寺とゝ〳〵る日蓮宗の寺境ハあり其角姓ハ竹下父を東順とゝ〳〵江州堅田の人医を業とす　榎本とゝ〳〵其母の姓なり儒ハ寛齋先生ハ学ひ詩ハ大巔和尚を師とし書ハ佐〳〵木玄龍の教を受ゝ自一家の風あり医ハ草刈氏某ハ就て術を得画ハ朋友英一蝶ハ倣ハ延宝ゆ〳〵し免芭蕉翁の門ハ入ゝ俳諧を学ひ竟ハ名をなせり雷桂子狂雷堂有竹居六蔵庵善哉庵文庵及ひ螺舎渉川等の数号あり晋子とハ戯号ゆ〳〵幼稚の頃地ハ池ハ住後


上行寺


兼教寺
覚心寺
清林寺
上行寺
圓真寺
黄梅院


院量想
院王明
院成就

正覺院
院性室

堀江町より移る又芝の神明町茅場町等も庵せり事を
五元集其余の俳書ゆえ宝永四年丁亥二月晦日卒
享年四十七著わの俳書凡二十餘部各世に行る

高野山宿寺　正覚院と号し真言古義の觸頭なり世俗高野
寺とのゝ称せり同所南の方一丁ばかりあるハ弘法大師の
像なり（四十二歳よりせの時門を入る大師自ら作り給ふと云）本堂の右の方に丹生高野
両神の祠あり堂前に三鈷松あり毎歳三月廿一日御影供を
修行せり

雑子宮　同所猿町の坂口にあり（此辺谷山村の内なり或官家の書に苫川領大崎云）慶長の頃
御放鷹の時此社へ雑子一羽飛入り其時神名を問せられ
しに土民山神の祠ある由申上られ已後雑子宮と唱へ申さる
上意ありてかく号らるゝ祭礼ハ毎年九月十五日に修行せ
別當ハ宝塔寺なり

鳥の化　雑子の宮

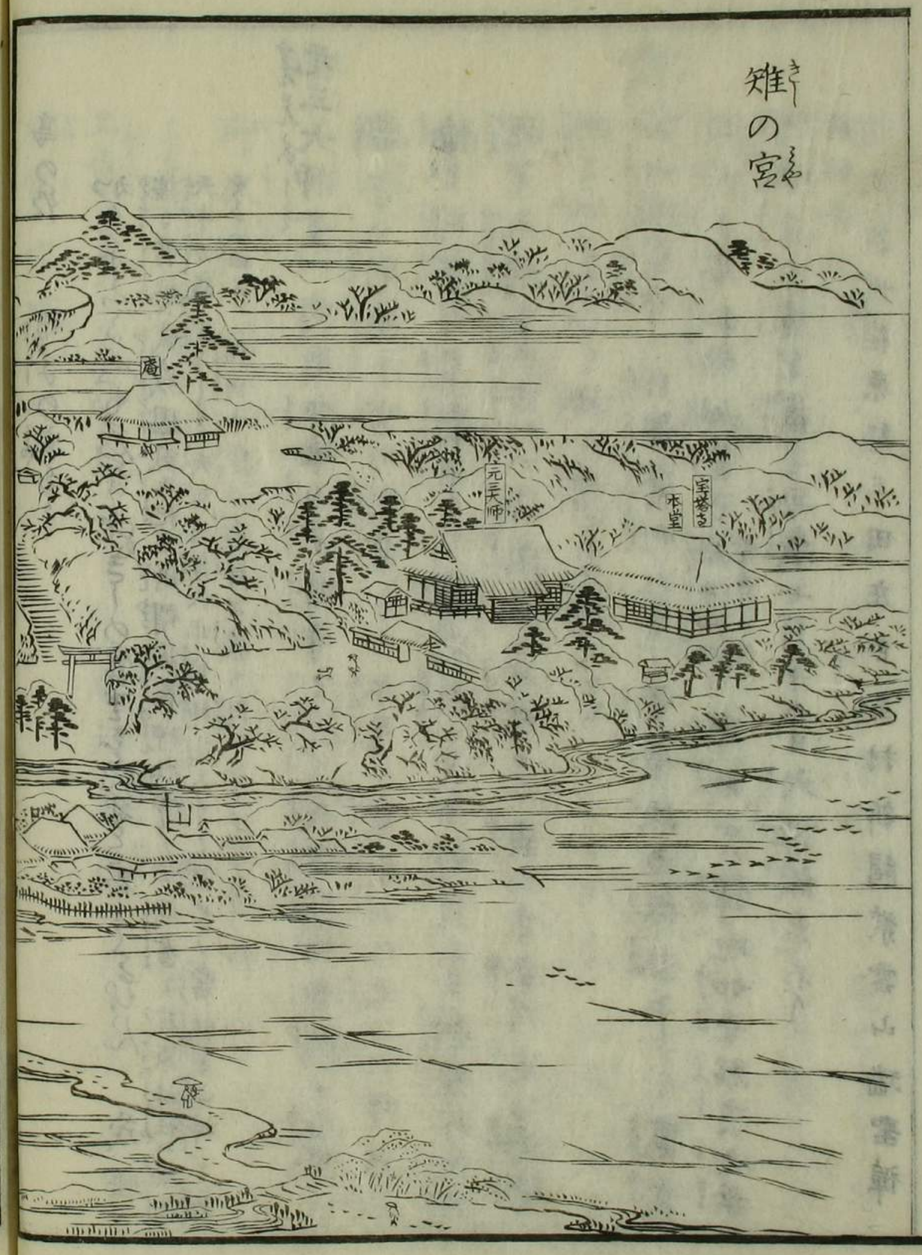
かりかくるくもゐのさきしの宮里を宿とすらむひゝん　茂睡
（按に當社ハ武蔵國風土記に所謂荏原神社なり同書に荏原神社ハ祭神天手力雄命なり天智天皇六年始神礼ありと記せり當社を山神と称ハ昔より信州戸隠の神を祭る所なり）

元三大師堂　同所白雉山宝塔寺と号る天台宗の寺院に安置し
當寺ハ則雑子宮の別當なり本尊ハ東叡山の元三大師の画
像と同筆の真影にして霊威照々たり例月三日開帳あり此
辺を大崎と云古へハ海濱にて此地より東の方品川迄の間袖の
形に似たりとて袖ヶ崎とも呼へり

紫雲山瑞聖寺　白銀臺町にあり黄檗派の禅林にして寛文
年間木庵和尚開基也（鐵牛和尚も當寺に住す）佛殿に釋迦如来脇士に迦葉
阿難等の像を置き毎歳七月十五日大施餓鬼あり

前銘弁引

武蔵州荏原郡三田庄白金村新開紫雲山瑞聖禅


雉の宮

寺去城二里餘其地廣莫前朝東海後接目黑然其山居士之竭力矣至於山
所唱始者青木甲斐守大端山之諫縁而所建立門大殿丈左右大小寮舍皆端之若是哉茲長松
院也捐金鑄鳳植根安能捨身財之追薦嚴父空印及大鎮山門託此勝因而超妙樂并及
尤士慈洪鐘以光院夫人以助冥福不可思議即不
居村野等魏特請爲銘如斯功德
幽靈才謹爲其銘

福十扣擊聲作銘曰
寛寧永於須彌大地爲壇鑄出洪鐘內外空虛圓音普徧
文十祖一年歲次辛亥孟春穀旦
同聞之證無發餘省若是功德至大奚如存者往者
國家悠久民安泰
延享二同歲中秋吉旦
沙門明祖眼謹誌

十四代住山嗣祖

晨昏火鑄銘曰
體分扣擊無漸次
鐘湧時延享再鑄銘
雜時開山嗣祖沙門
籍二歲并引
是次乙丑春二月羅回祿堂宇燒燼洪
山僧發志願募諸方而今再鑄焉
斬新禮樂古禪叢
冥苦息除證法空
音聞清淨尔圓通
永鎮山門化令隆

鑄工　小幡内匠　藤原勝行

佛殿

額

二重家根の軒に掲く

釋迦佛を安む

臨濟正傳三十三世

黄檗木庵稻山

僧書とあり

大雄寶殿

延宝辛酉

吉旦開山

木庵稻

書とあり

聯

天王殿の左右の

柱に掲く

木庵稻書と

鐘樓

佛殿の右にあり

堂中文殊觀音

等の像を安む銘文も

木庵和尚撰むるあり

瑞聖寺

鐘樓

開山

木庵

書

軒に掲く

寛文辛亥正

月吉日立開

山嗣祖沙門

木庵書とあり

門開長見江山靜

地接不通車馬喧

聯

同堂内の

左右の柱に掲る

壽山の書

索雲堆意現慈容

殊聖門中輝妙相

紫雲山

額

天王殿

佛殿の前の方

石階の上あり

内に径山寺の布袋

和尚及び帝釋四天王

等の像を置り

節竿旗

佛殿の前

左右に建る

經藏

佛殿の左に並ぶ内に楞嚴の釋迦牟尼の像を安む瑞聖寺の昔のかたるあり傳

大士の像もありこの經藏は延宝八年下石池端錦袋圓の元祖了翁僧都の

建立あり唐本の一切經を收む稻葉美濃守正則取寄らるゝところのもの余

書籍も五千余卷を集め置く

勸學寮

選佛場

二間に五間其中五局に儲けく一字を建披覽

浮者の爲に是を置くなり

同所に並ぶ内に開山隱元禪師の

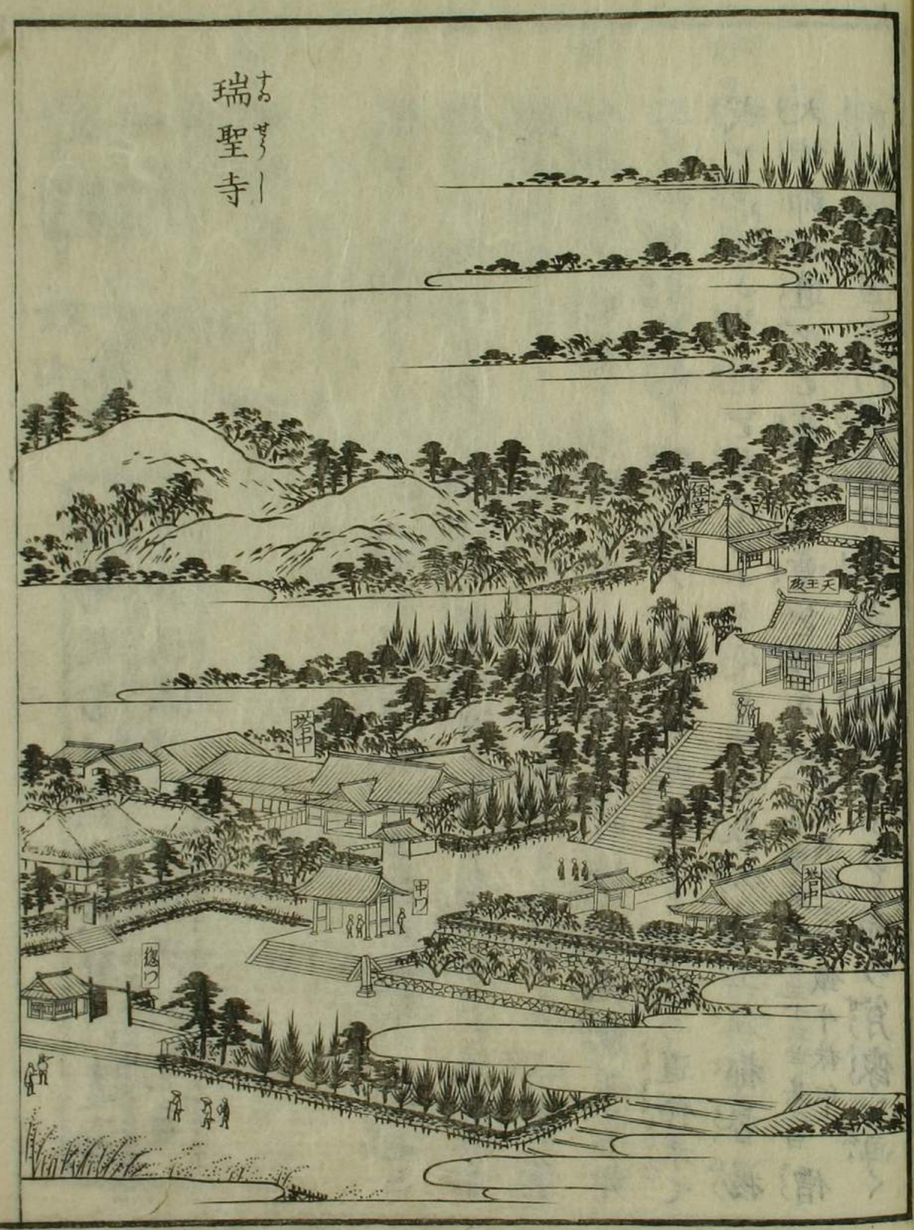
像を置て左右の柱に掲く

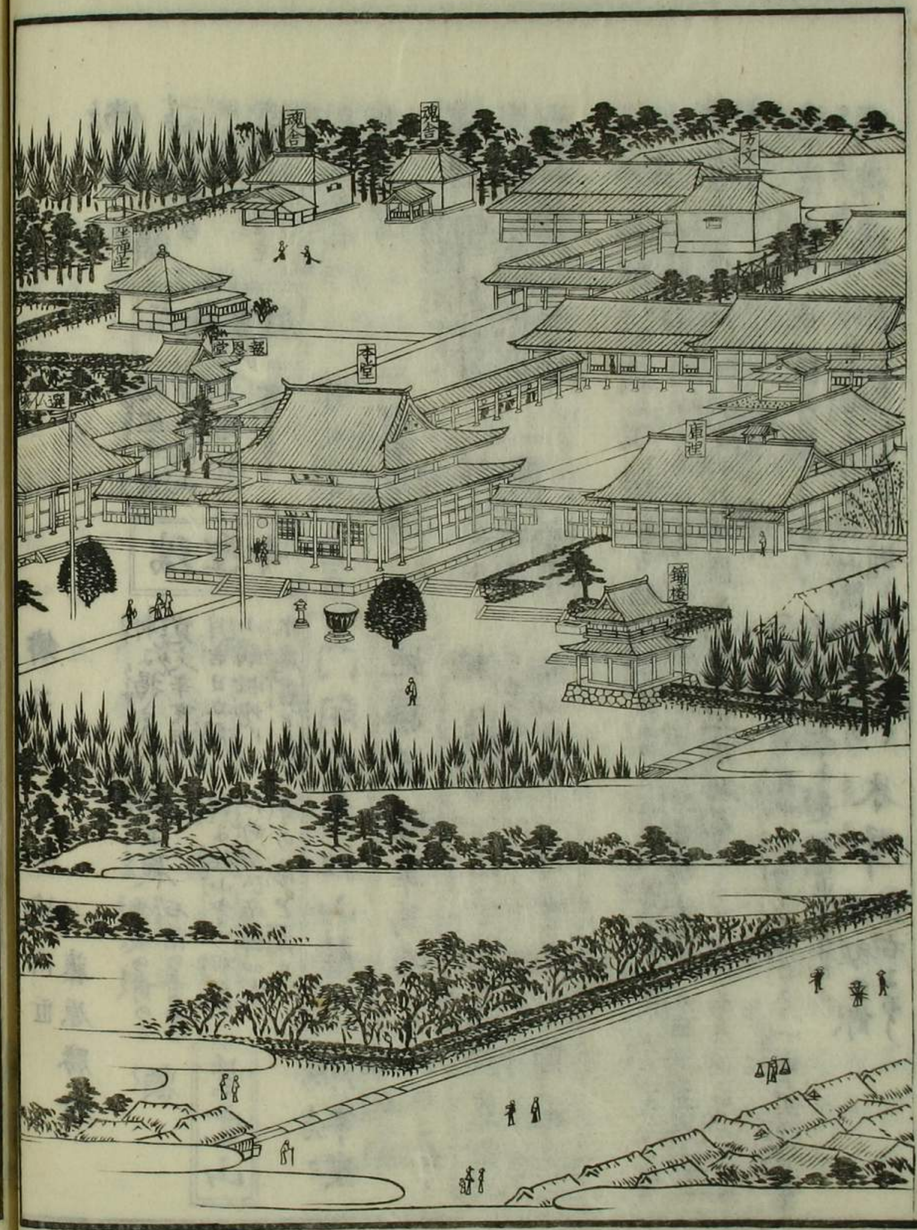
經藏の傍にあり

木犀

佛殿の前

左右にあり


瑞聖寺
天王殿
鐘楼
中門
鼓楼


觀音
觀音
方丈
聖壽堂
慈恩堂
本堂
東淨

大用現前時頑山鉄壁沈遠迅
全機活表安石出電光石火延

延佛場

軒に掲く黄檗木庵書とあり

聯 当寺三十三世若冲盈書とあり

報恩堂

雲宗筆

牌堂額

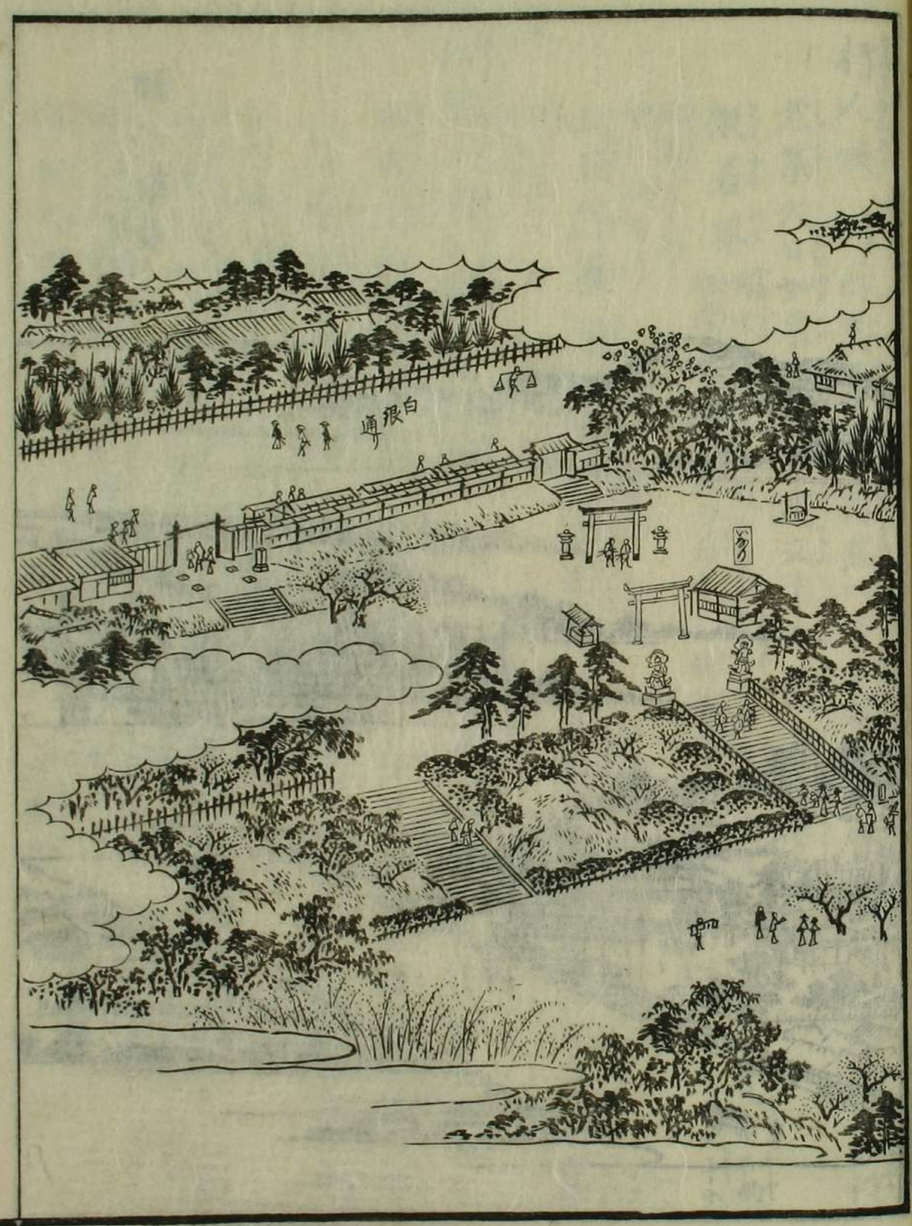
当寺ハ寛文十一年辛亥青木甲斐守と号す端山居士旨を奉して此地に就く一精舎を営む当寺黄檗本師を請して開山とす開堂の日鐵牛和尚しく首座とし秉拂提唱せしむ甲寅秋黄檗和尚再ひ瑞聖に住師に命しく分座説法人天悦服す乙卯三月和尚旨を奉し師を以て紫雲の継席とす遠近の道俗来て戒を求むる者指を屈す丁巳春大清主左都督揚大神師の道化を慕ひ三章を贈る其一に曰臨済正宗三十三世其二に曰僧明溪に五百大阿羅漢の像五十餘幅あり師の肖像を画く

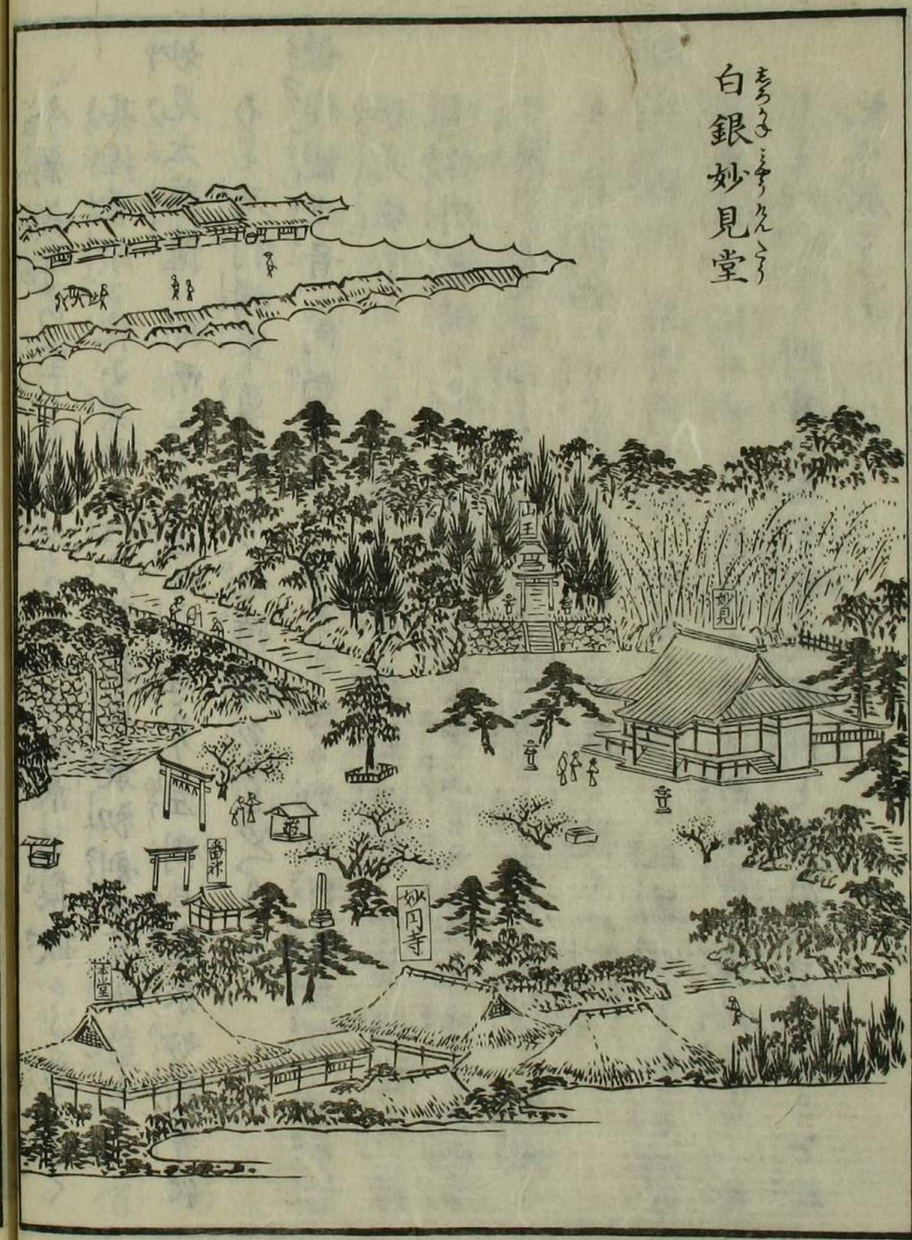
今猶鎮守の宝とす当寺ハ本山の光景を摸擬する所やしく其経営頗る他に異なり江戸黄檗宗最初創建の伽藍なり

妙見大菩薩 同所三丁斗西の方道より左側日蓮宗妙圓寺にあり足利将軍尊氏公の念持佛なりとなり

鎌倉観世音 同西の方一町半斗向に側六軒茶屋町の角真言宗光雲寺にあり相傳に神亀年間行基菩薩諸國遊化の頃信州更級に始て掛錫しかに平山と云所の池中より此本尊出現あり又空中より化人あり鎌倉に御衣を持く降臨し彼観音の尊像を彫刻し行基に授けし此本尊なり

誕生八幡宮 同所同一側一町斗を隔つく永峯町にあり文明の頃筑前宇美の地より勧請を祭る所の神ハ神功皇后一座なり本地佛ハ弘法作別當ハ真言宗高福院と号ス八月十五日を祭祀の辰とす


白銀通


白銀妙見堂
山王宮
妙円寺

鎌倉観音

行人坂　同所同西の方目黒へ下る坂を云寛永の頃湯殿山の行者某大日如来の堂を建立し大圓寺と号ス此寺今ハ般若塚　同坂の半道の側にあり延享三年縁山清林院の木食心誓一道和尚往来の大地成就のため般若心経三千巻を書写ありて此地中ニ埋蔵せし印の碑あり

五百阿羅漢石像　同道の左にあり明和九年壬辰三月二十八日二十九日両日大火ニ焼死せし者の迷魂を弔ハむとある人是を建立せしと

松樹山明王院　同所坂の側にあり天台宗にして東叡山に属す

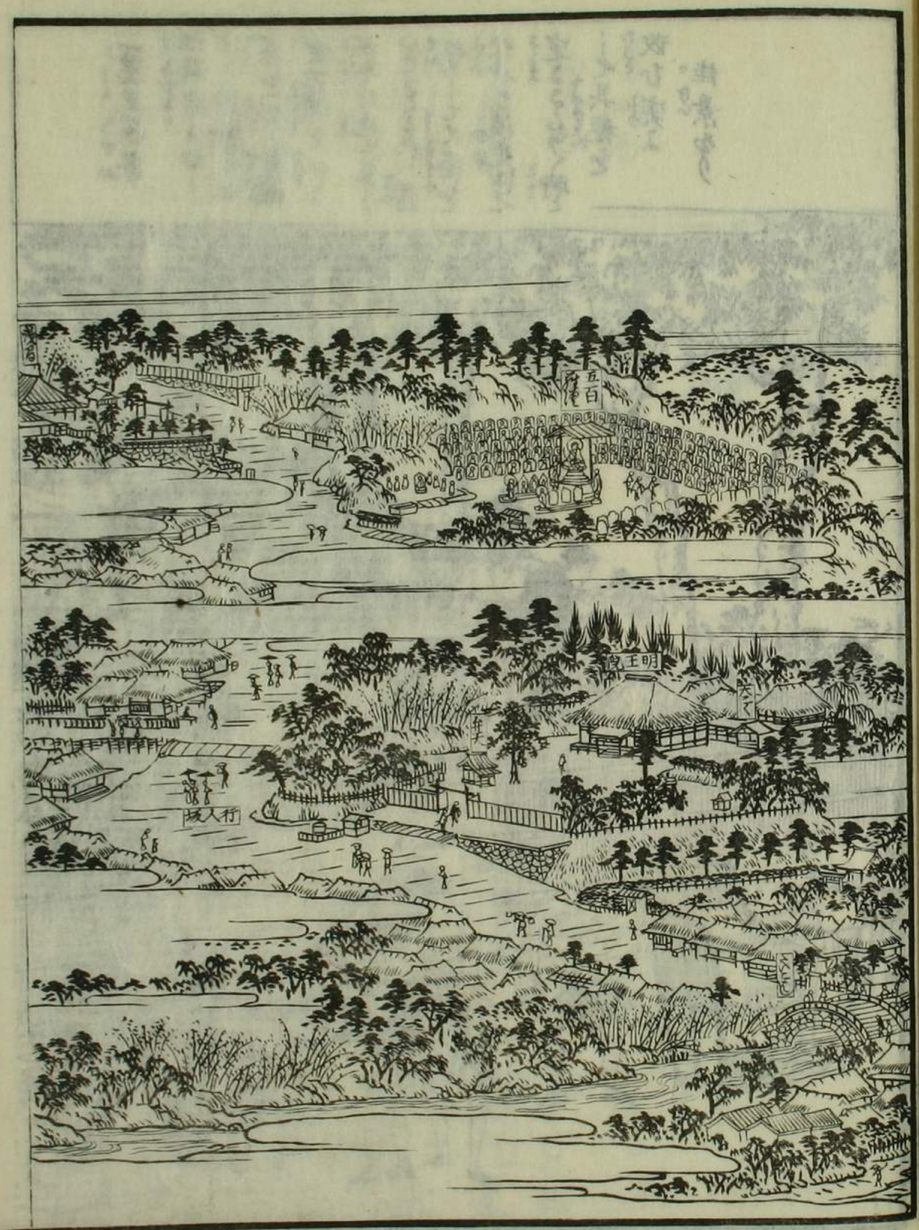
本尊阿弥陀如来脇士観音勢至を安置せり開山を栄運法師

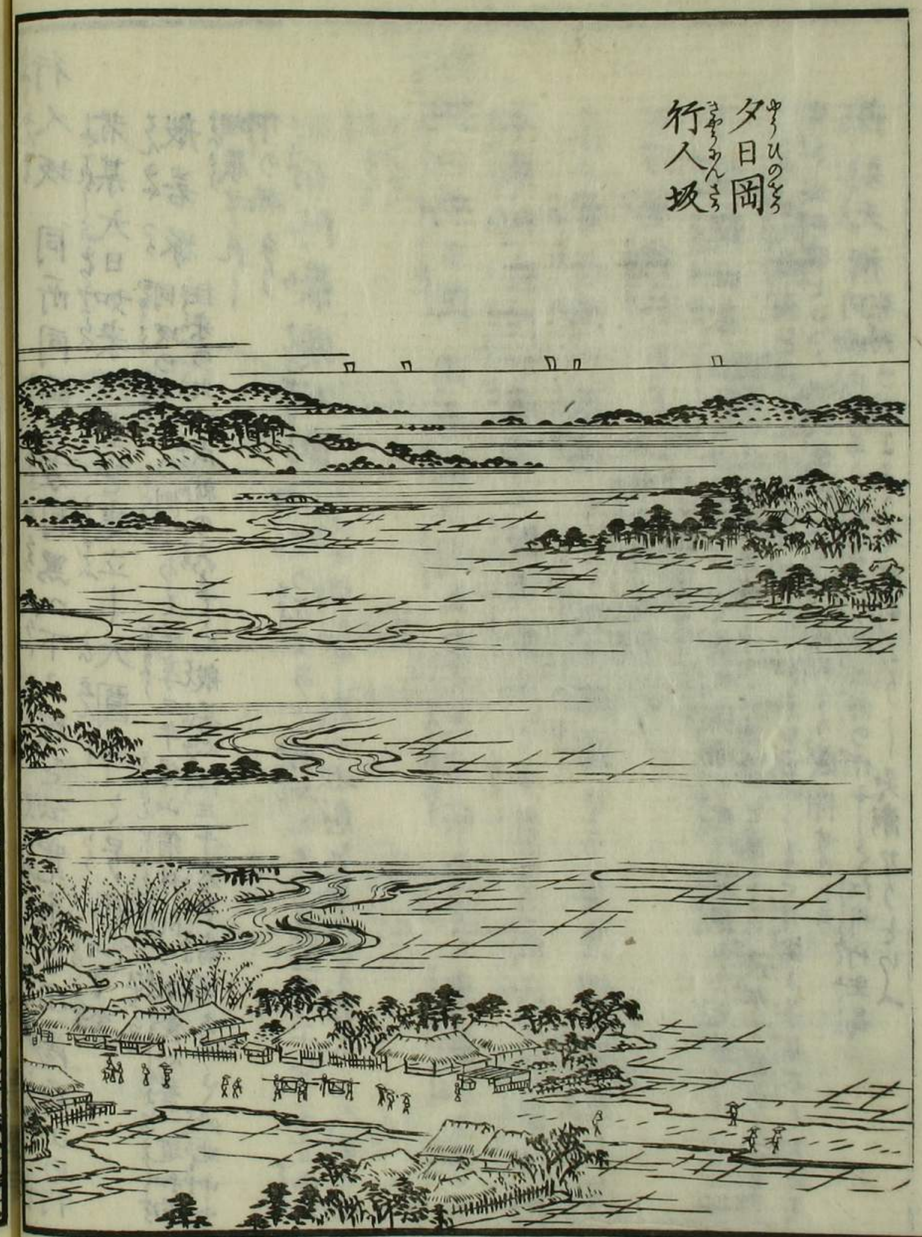
とす常念佛の道場にして頗る殊勝なり毎月四日報恩念佛

百万遍修行あり此常念佛ハ西連とす

子安観世音　沙門の発願なり長州檀浦出現の霊像なり元禄元年六十六部弘法大師の作にして長く當寺に止まる納経の修行者覆夢を感ずるの後永く當寺に止まる女人難産を救ひ給ふ符を出せしまゝ什宝に子安石と云あり

辯財天祠　同境内にあり沙門信順といふる沙門信州作久郡三塚村より感得せりと云弘法大師の作にして江州竹生島弁財天の部にあり


五百羅漢
王明
坂人行


夕日岡
行人坂

富士見茶亭

西南遥かに〳〵けく芙蓉の白峯を望む風織雲を掃く氏よ玄冬の色をあらはしとこれハ忽然として又姿を失ふの須臾はて定るがなく時として其観を改む実よ佳景なり

旁時百
ぬしを
こぬるを
却りて
ろく
き

拙青嚢

太鼓橋

夕日の岡　明王院の後の方西に向へる岡をいへる古へハ楓樹数株捎を交へ晩秋の頃ハ紅葉夕日に映し奇観こうしとありされと今ハ楓樹少く只名のみを存せり

大鼓橋　同所坂下の小川に架せる　目黒川　柱を用ひを両岸より石を畳みなして橋とす故に横面より是を望めハ大鼓の胴に髣髴　故に世俗もつ号く享保の末水食上人心願を是を制せるとなる

靈雲山蟠龍寺　安養院と号に同所橋より一町ばかり西南道より右にある浄土律ゆゑ縁山に属せる本尊阿弥陀如来を慈覚大師の作なる開山ハ吟蓮社龍誉一雨靈雲和尚と号に上野國新田の大光院より退隠の後當寺草創あり境内に丈六の阿弥陀如来の銅像あり又後の方山崖の下に岩窟あり中に辯財天を安置せ弘法大師の作なり本宮ハ門の向にある惣門の額に安養院と書せしハ黄檗獨湛和尚の筆なる

臥龍山安養院　能仁寺と号に同所にあり天台宗ゆゑ龍泉寺に属せり本尊涅槃釋迦像ハ空誉上人の作なり當寺を法華讀誦祈名念佛の道場なる

蛸薬師如来　同所町家の巽の隅にあり天台宗成就院境内に安置する薬師ぬ来ハ慈覚大師の作なり世俗傳へ云此仏に祈願ある者ハ蛸を断つ是を念ずる果しく利益ありとく繪馬に蛸の形を畫くく捧く

目黒不動堂　同所の西百歩のあり泰叡山龍泉寺と号す天台宗ゆゑ東叡山に属せる開山ハ慈覚大師中興慈海僧正なる

本堂不動明王慈覚大師作脇士ハ大童子なり

本殿額　泰叡山　後西院御筆　樓門額　泰叡山　後水尾帝御筆

弁天
宮
天神

蟠龍寺
窟辨天祠
本堂

鳥井額　泰嚴山　日光御門主明王院宮御筆

経藏　一代蔵経を安置せるなり　釋迦阿難迦葉の像を置

八幡宮　早尾権現　祭神猿田彦大神或素盞鳥尊とも云ふ祭礼

毎月十五日あり此堂社本堂の左右並び建て

恵比須大黒祠　鐘楼　水神宮　愛染明王

大行事権現　此地の地主神なり　五月十五日祭礼あり　祭神高皇産霊尊

石不動　本堂の右にあり

稲荷祠　地蔵尊　掌善掌悪の二童子を置

聖観音　開山堂　聖徳太子

天照太神宮　本地大日如来　本堂の後峰山の腰を切割く安置せる俗に興の院と称せ

吉祥天女祠

天満宮　鬼子母神　十羅刹女祠　虚空蔵堂　遼軍神祠

結神祠　役小角　女坂の中程にあり　銅像ハ前鬼後鬼の像あり

三佛堂　弥陀　薬師

秋葉権現　六所明神　荒神宮　疱瘡神　粟島明神　石地蔵尊

地蔵堂　堂内稲王脱衣婆の像を安置

観音堂　中央ハ聖観音廻ハ西国坂東秩父の札所百番の観音を安置せり

勢至堂　稲荷祠　前不動　左右ニ十二天の像を安置す　楼門の左の方にあり

楼門　左右ニ金剛蜜迹二王の像を置裏ハ使者犬の像を置り

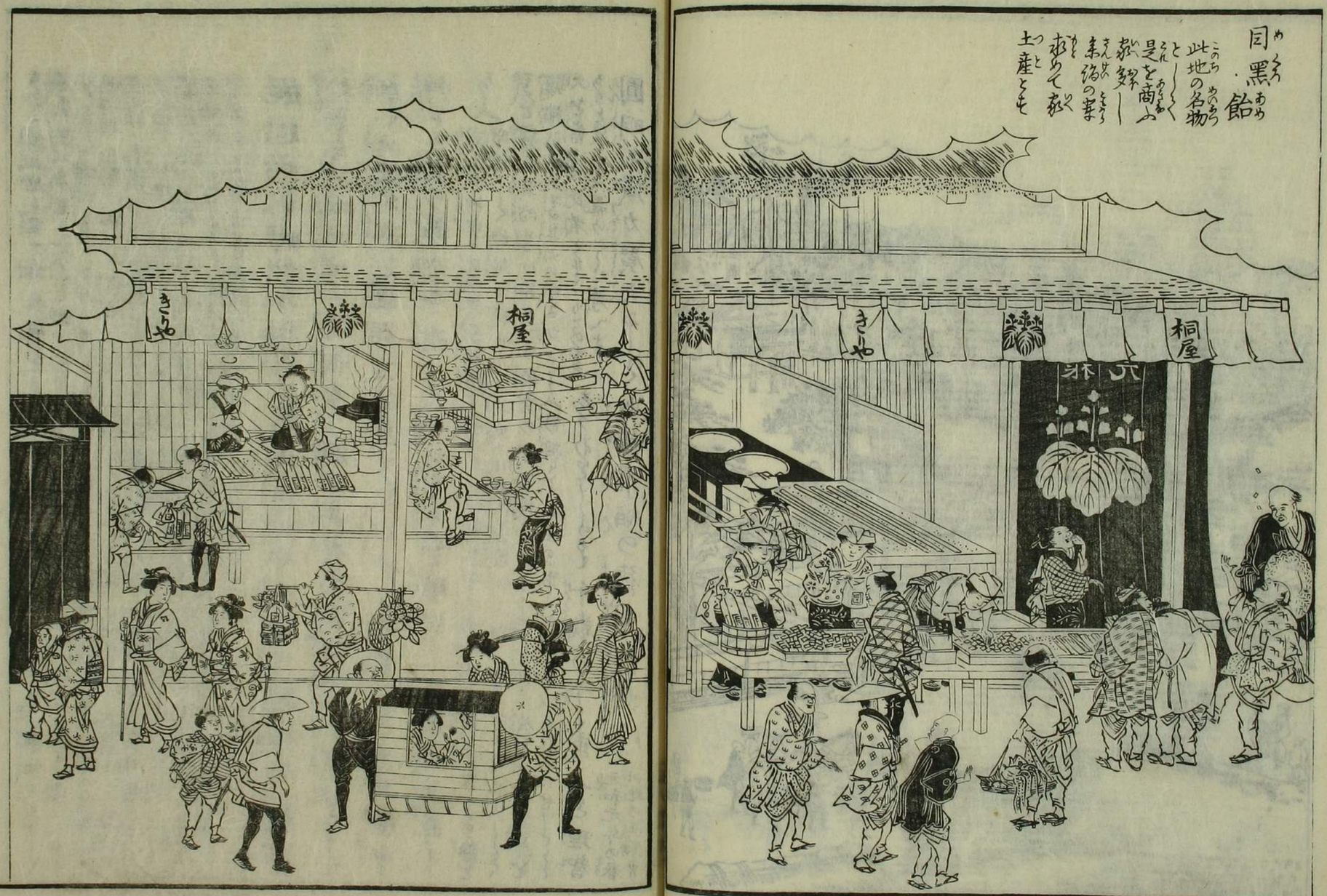
獨鈷の瀧　當山の垢離場　開山慈覚大師入唐帰朝の後関東へ下り往古承和十四年當寺

鮹藥師堂
本堂
玄関

金精
飯櫃

同黒飴

此地の名物
とし〳〵
是を商ふ
数多し
素絹の事
求めて数
土産とす



なひ頃此地より至て独鈷杵を穿ち得たりしを常に霊泉湧くと云
張落炎天旱魃と雖も涸る事なし国人相ハ目黒一村の水田に引用るとの事なり昔ハ三口に
流れしを俗に出せり今ハ二流となりしなり一年此滝水の涸るゝ事ありしに再ひ元の如くなる故に今も年々当寺江島の
沙門某江島の弁天に祈請し奉り怠慢鷹居の松旧名白ひ松又腰掛松とも弱く
弁天へ衆僧を引て修詣せしむるに其験ありしに其事鷹前に彩方を立て依て別当
寛永の頃大樹此地に御遊猟ありしに其事鷹を放ち然に立ち帰り鷹居の松に止まる此松に依て
実栄和尚の旨あるを以て此地を御遊猟の地と定め給ふ依て別当
所感あるゆへなり此樹に寄居松の名を付る

縁起云 平城帝の大同三年慈覚大師本國下野國より叡山に

起きるゝ頃此地に投宿あり然に其夜の夢中明王霊示あり

永く此地に跡を垂れ群生を度せんと曰ふと覚るに翌日夢中

拝せしに尊容を摸し今の如くを彫刻し当山に安置し

或人云此地ハ日本武尊を鎮る慈覚大師此地経歴の頃不動尊の像を

彫刻し神躰に擬せるの例なり其故に日本武尊駿河に狩し給ふ時火攻に

遭ひ給ふ其時尊の佩給ふ聚雲の剣を抜て狩犬の綱を切て放ち燃来る草を

薙拂ひ給ふ其火の中に立給ふ形相さも明王の形に似たりと以れに比せしとも

犬を當山の使者と崇るも此説なり考へ志あるべし

圓明の威力廣大なりしく迦楼羅焔の徳用深妙なり千歳の今に甫ふと理智

元和元年の春此地の在家あり

餘焔堂に覆ひ掌に滝の下に留りぬ猛火を除き給ひ滝の下に留りぬ

人皆奇なりと云寛永元年大将軍此地に狩あり同十一年に再興あり結構備はる

此地ハ遥に都下を離るゝとの事なれども詩人常に絶せず殊更正五九の月

廿八日前日より終夜群参しく甚賑ふ又十二月十三日ハ煤拂

ふく閑帳あり是も前夜より参詣群をなせり門前五六町の間

左右貨食店軒端をつらねく詣人といとも〻栗餅飴

餅花の類ひと鬻く家多し

虚無僧寺 同所門前大路の西にあり普化宗金洗沢

東昌寺と号し和番所と称して本寺あり或風呂屋とも

金洗沢 法恵沢 西向沢 安楽沢 水戸へ菊寺 惣本寺の番所と

唱へ浅草 黄小路 小金一月寺 牛込早苗田 青梅 鈴法寺 芝金杉 神奈川

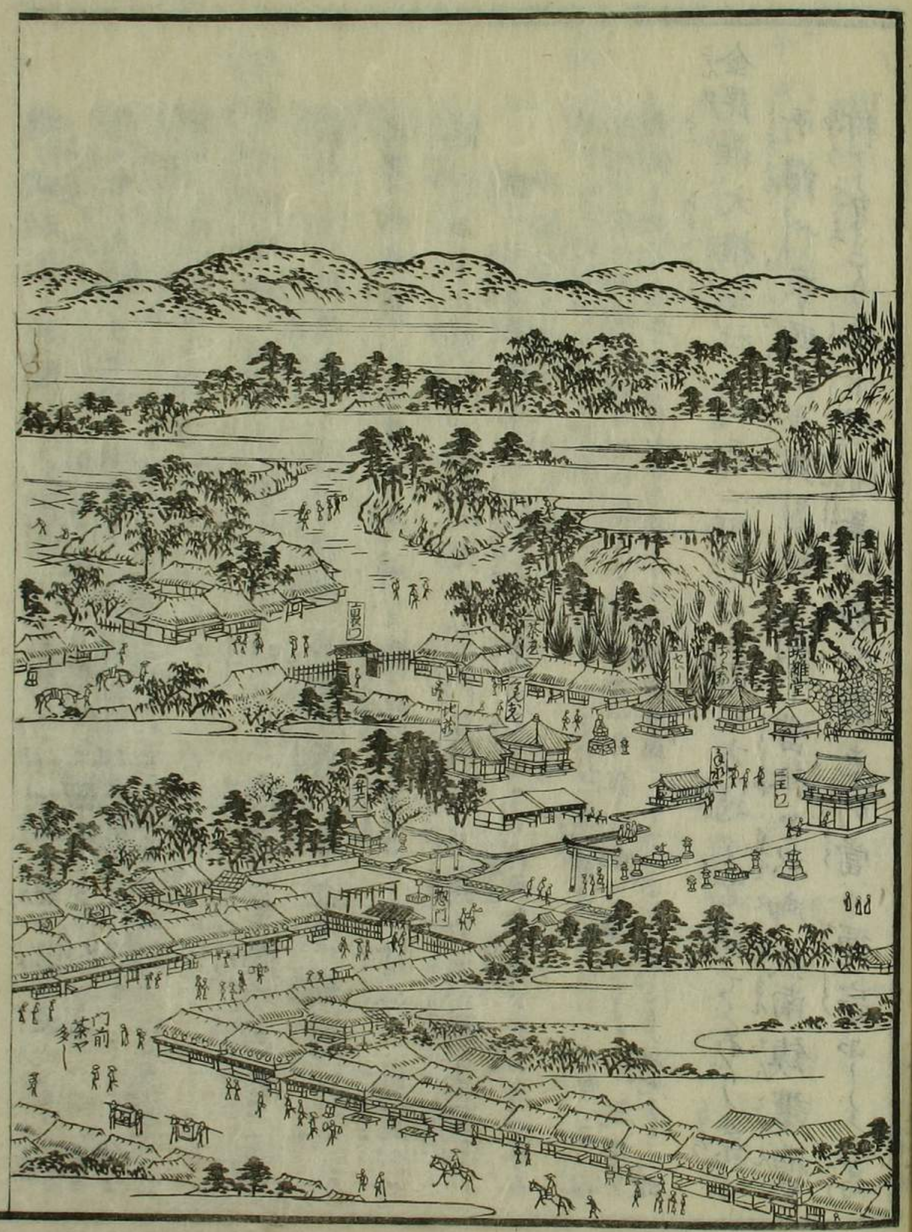
西光寺

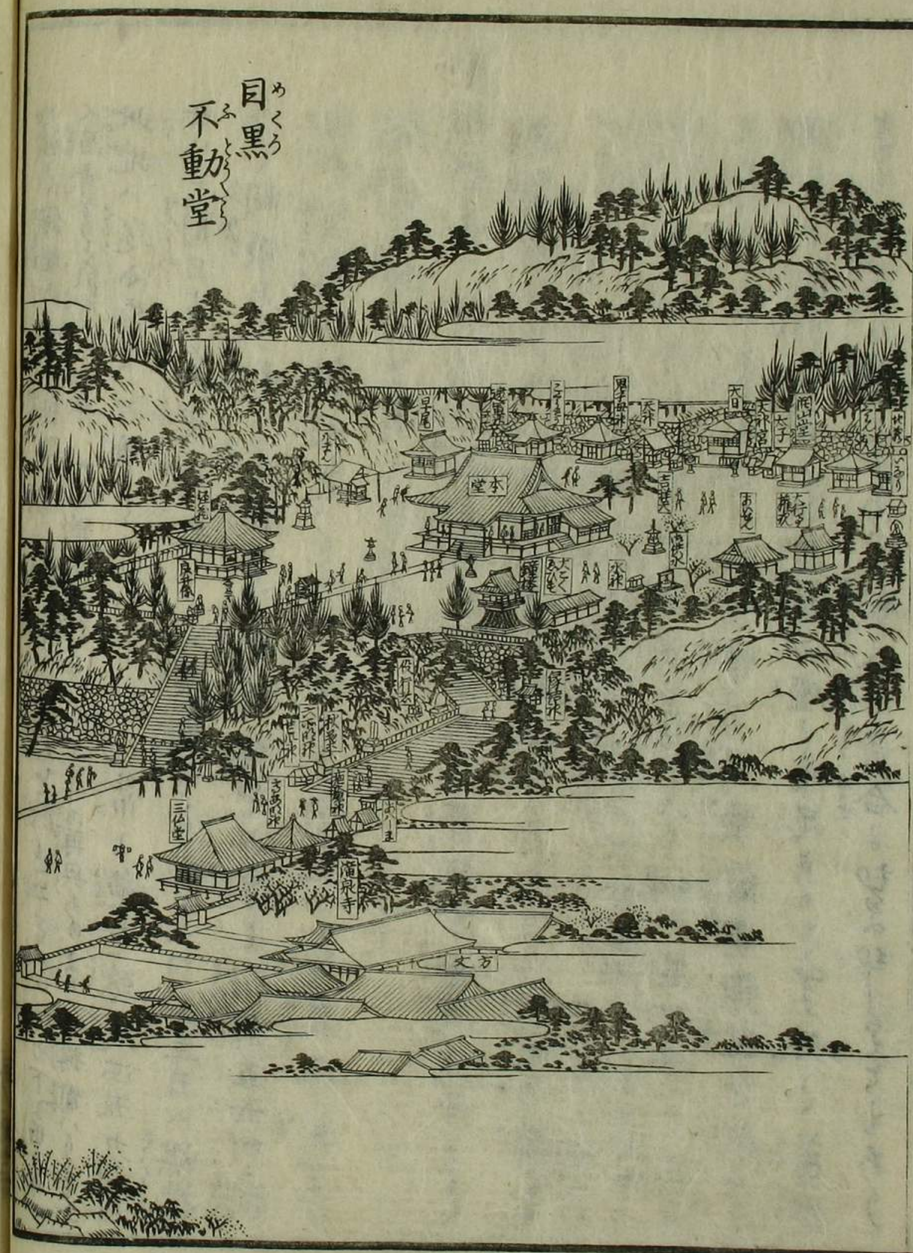
雍州府志に虚無空寂を宗とす故に虚無僧と称

又薦僧とも書く意ハ其徒常に風餐露宿険難を厭ず

諸方を経歴して至る和蹉薦を座して足まりとす仍て薦僧

とも云中世暮露と云あり職人尽に奇合にもあり




目黒不動堂

治の郡安寺ハ朗庵とゝ云る異僧あり紫野の一休和尚ハ親しく常ハ風穴道人と称し尺八を吹くたのしみ是風穴演芋の作略を慕ひしるし始宇治の吸江庵ハ住す世ハ云ふの虚無僧の本寺なり元東福西州風穴道人の門弟ハ不くハあり一説ハ普化和尚の流派とゝも風穴のす是を取ハたるとあり明恵上人の革袋ハ兼好法師のつもり草なるハ

大鳥大明神社　同所不動堂より北の方二町さかりを隔つ別當ハ天台宗ハ〳〵大聖院と号ス祭神日本武尊一座なり相傳ふ大同元年丙戌泉州大鳥の御神を勧請しなるとゝ當社ハ目黒村の鎮守ハ〳〵祭礼ハ九月の九日を例とス此日角力興行あるゝ

按ハ目黒不動堂ハ日本武尊の説を交へ〳〵ハ此社を誤まて云ふん歟不動堂の条下と合せ〳〵へし

附　山辺を目黒と号け上中下とゝ云て廣曠の地なり永禄二年小田原北条家の所領役帳ハ太田源七郎島津孫四郎等此地を領記せり此地より出東鑑ハ建久元年十一月七日の条下ハ目黒弥五郎とゝ云る名を載せり

金毘羅大権現社　同所二町さかりを西の方通りを隔てゝあり祭る所潜州象頭山金毘羅神と同し〳〵當社を以御城南鎮護神と称しまゝり九条家染筆の額を蔵を別當ハ禅宗ハ〳〵高

幢寺とゝ境内ハ難波の梅又曽根の松と称する樹あるゝ

千代ヶ崎　渋谷宮益町より目黒長泉律院へ行道の傍芝生の岡をゝ〳〵佳景の地ハ〳〵永峯ハ属せり絶景觀とゝ云ふ松平主殿矣の別荘の号ハ〳〵閑寂無為自然ハ其地ハ應也

高峰山長泉律院　同所六町さかりを西の方ハあり浄土宗ハ〳〵縁山ハ属也則縁山前大僧正成誉大玄和尚を開創の主ハ〳〵不能律師弟二世〳〵ゝ弟三世を徳門和尚とス

師の肖像を在世の時弟子惠徹彫造せる

本堂　山の半腹ハあり〳〵文室ハ去る数十間の回廊を架し〳〵通ハ明和五年戊子初て此佛殿を営建せ

阿弥陀如来なり　座像四尺余慈覚大師の作泉州堺の心蓮寺より請得〳〵

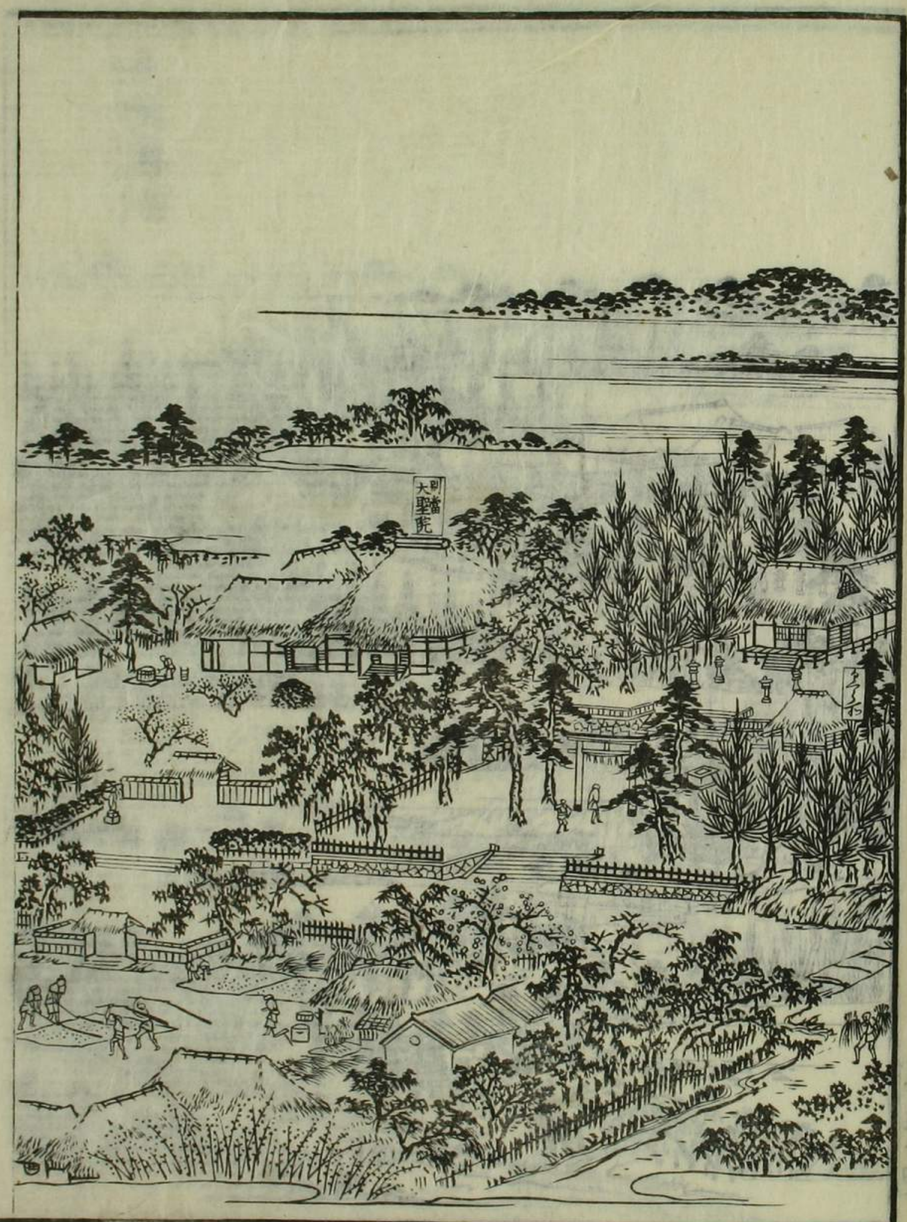
経蔵　門ハ入り〳〵左ハあり安永七年戊戌落成を在律修師と加へ〳〵當寺の供像とする開山徳門和尚ハ中ハ諭三蔵ハよひ禅師の剣疏を安置せり

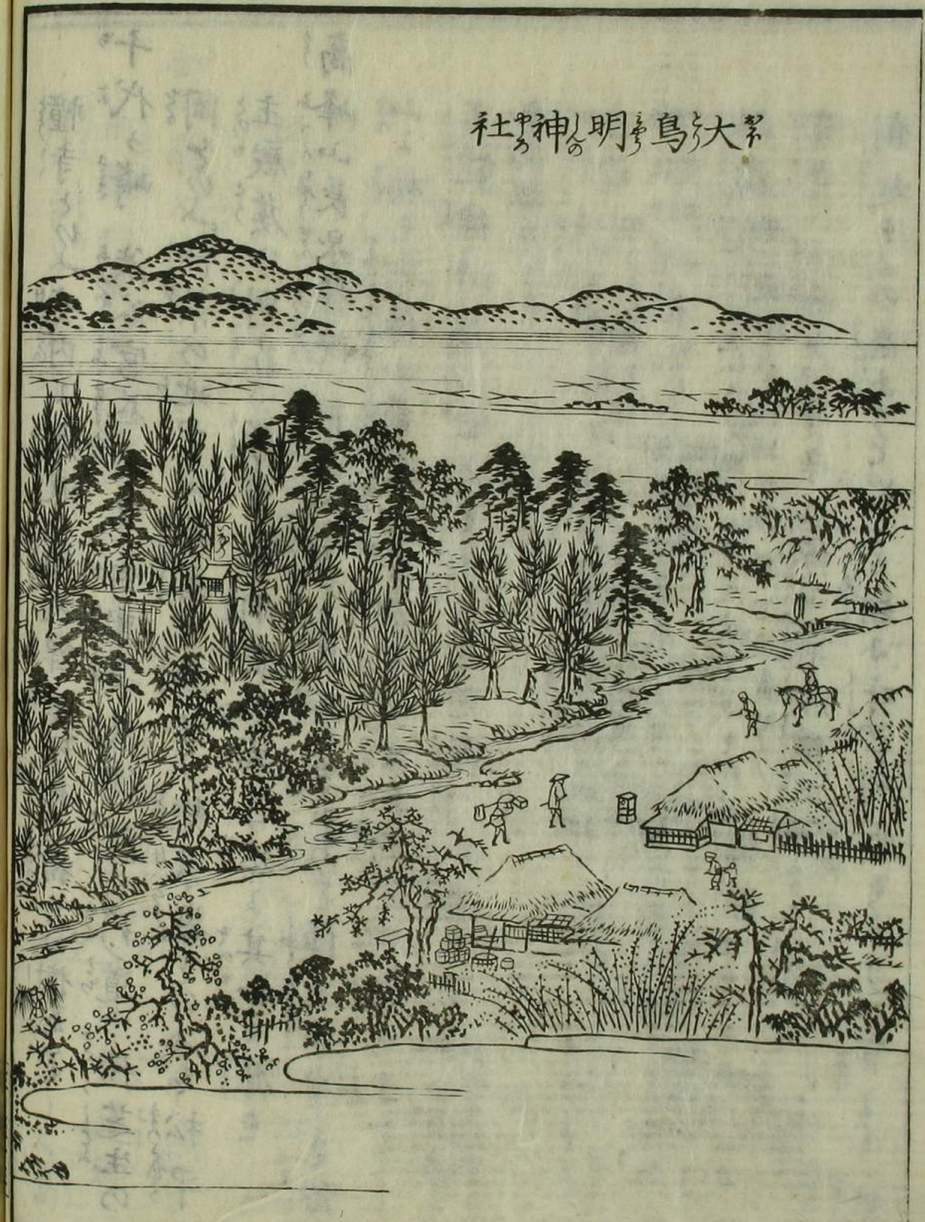
鐘楼　又安永元年徳門師建立銘を作らる

當寺ハ宝暦十一年辛巳縁山前大僧正成誉上人大玄和尚とゝ

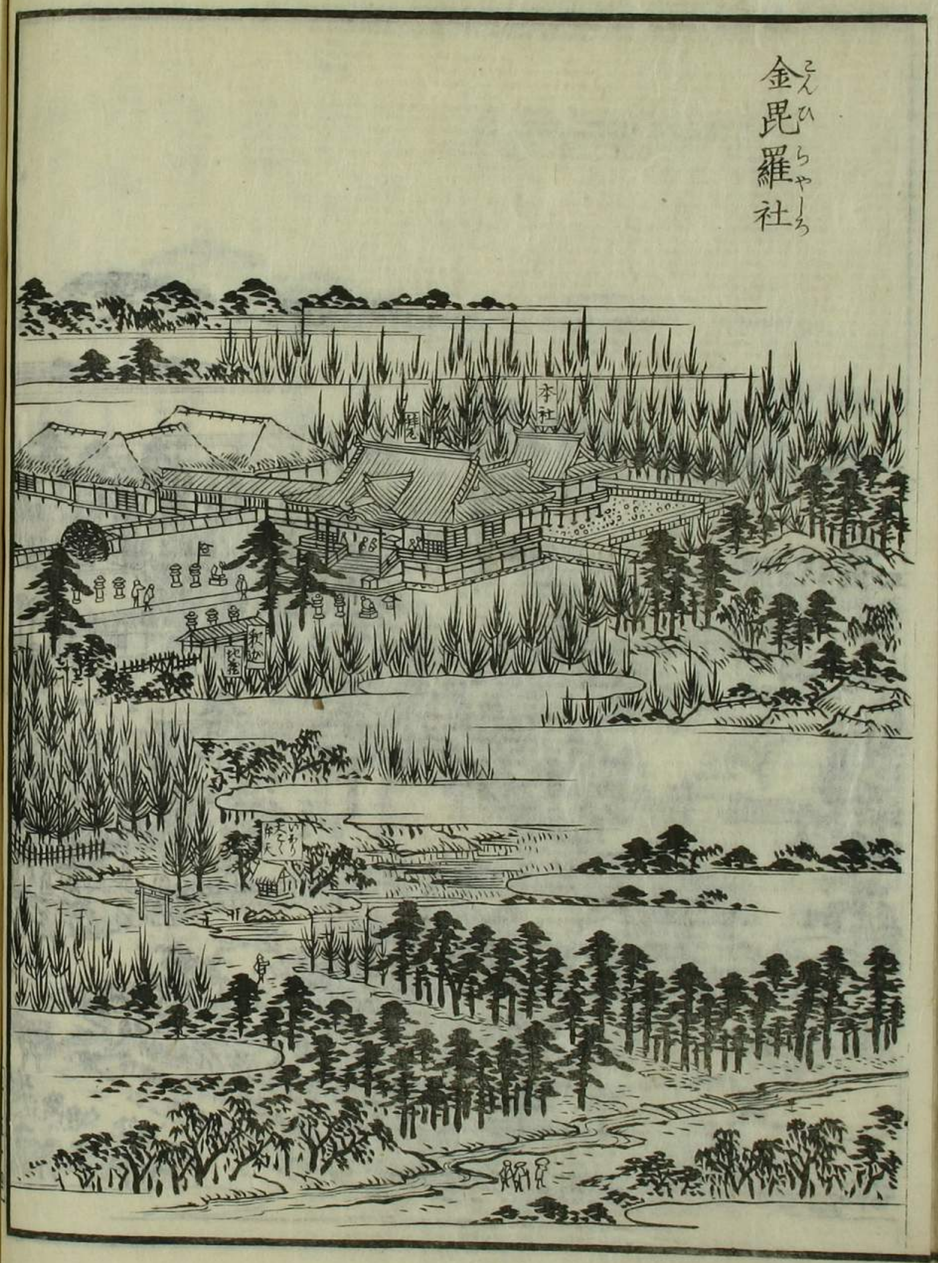
本尊ハ上品上生ハ

久〳〵く律院を創起せるの志ありとゝ新ハ寺を開創せるハ官より禁


明治大聖殿

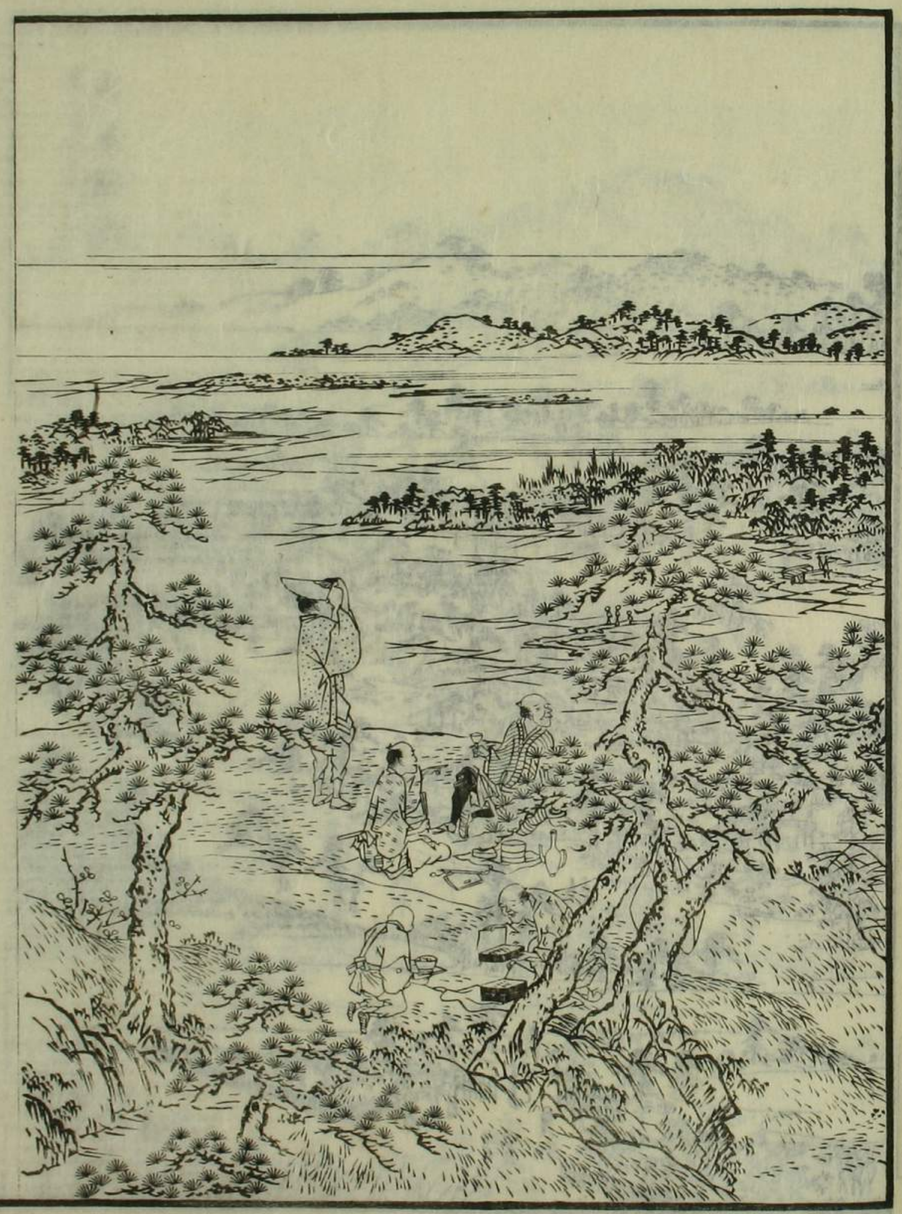

大烏明神社

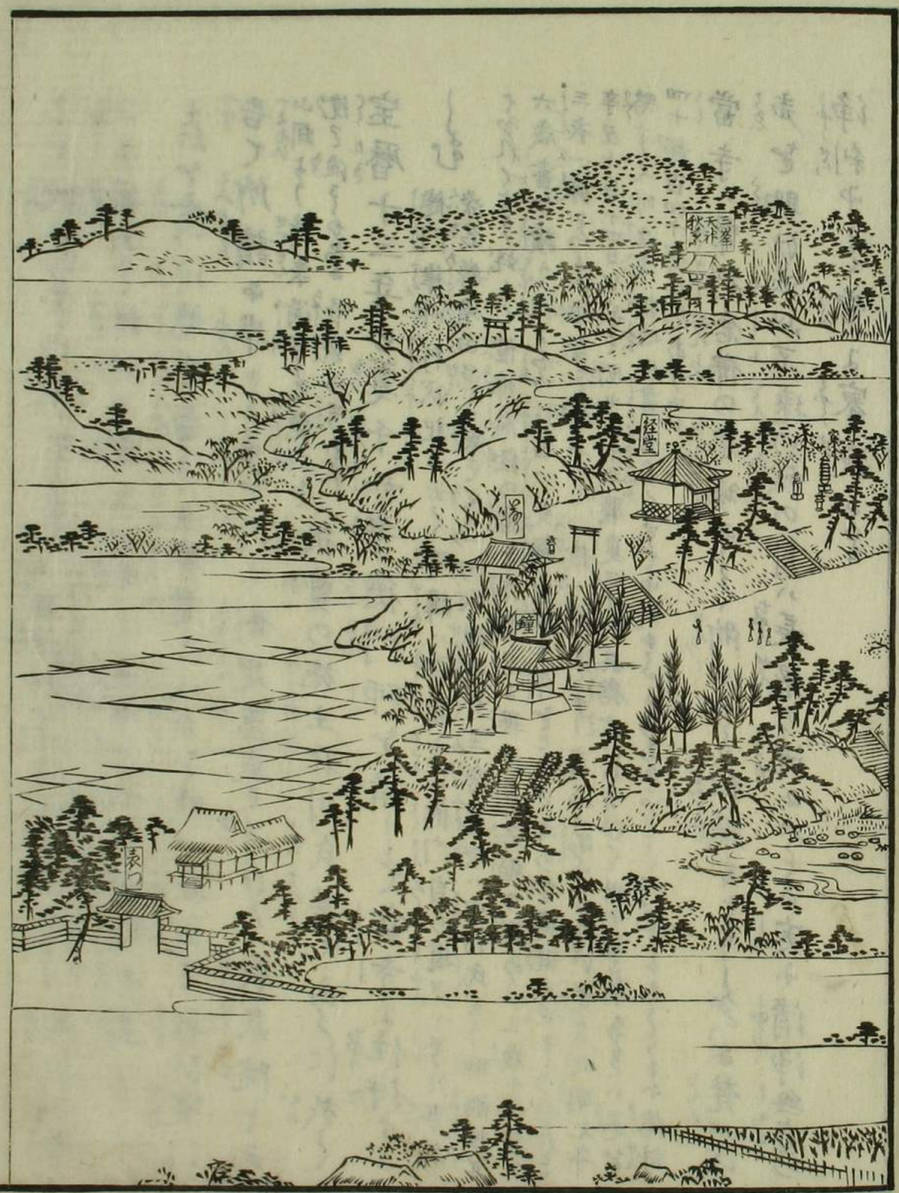
金毘羅社（こんぴらしゃ）



千代の湾

行人坂の北永昌松平主殿介別荘の後中目黒の方へ少し下る右なり初鎌ヶ湾といひしを後ち千代ヶ湾と改められしとのふ殿介樹の間ゆゑ北の傍ふ衣掛松といふ是ハ彩田義典の宮義典矢口の渡しゆく実証のよすがもなく孤人此地ホネを投といへり孤系親といへるも此あ荘の号ありとそ





長泉律院

故ありて事なす　不能律師に至り営建既に成る　大玄大僧正に寂あるを依師の遺志を奉し法弟千如等百計千慮して
これを企つ川越蓮馨寺主教意上人力を戮せ扶成を再び官に
告て所請に準じて得く創建落成せり号けて長泉院と云
山間より清泉涌出て境内を扶費の施主北川氏某に於て
繞て流れ多く長泉の号あり
宝暦十三年の夏千如等徳門師を請して当寺に住持
徳門律師行状記に云く師諱は普寂字は徳門自ら道光と号す勢州
桑名県増田邑に誕生父は一向派源流寺主秀寛母は中村氏なり師襁褓を
脱れてより好んで禮佛誦経の態を作常児に異なりて名猫の相あり三歳字を識り
六歳書を讀九歳の夜の経書一受輙ち記す年をこえて師の学徳既に世に聞こえ
三衣一鉢ろ水准身を掩めの一銭一米蓄ふ無し竟に天明元年
辛丑十月十四日化寂を図世七十五臘夏三十六其徳化はあまねく世に聞こえ
略す又明生手撰述の書甚多くすべて刊せるものあるを刊せざるあり総計
四十部百四十有三巻あり云く
当寺は常行念佛の道場にして浙々たる松風ときしるに梵唄の
声を助け去此不遠の秋の月は長泉の流に実に清浄無塵の
浄刹にして常に寡寂